わが子のあゆみ

2018.9
No.454
初秋号
第70巻2号
9

【丹生中プライド】

丹生川中学校の生徒の心には、「なりたい自分をイメージする」「なりたい自分になるように自分を磨く」「自分を磨く気になる仲間関係をつくる」という合言葉が刻まれています。

この写真は、そんな丹生川中学校の生活を象徴する1枚です。合唱祭で金賞を取るために、クラス全員が思いをひとつにして日々楽しみながら練習を重ね、「金賞！」と呼ばれた瞬間に全員で思いっきり喜び合えるこの雰囲気。これが「丹生中プライド」なのです。

たかやま しりつ にゅう かわちゅうがっこう
高山市立丹生川中学校

がんばる子らの 汗と笑顔と眼差しと

高山市立丹生川中学校

楽しい授業

生徒が楽しみながら主体的に学び深めることができる授業をしています。特に小集団での対話活動に力を入れています。

コミュニケーション能力の育成

国際的観光地である高山には多くの外国人が訪れます。授業で身に付けた英語の力を使って外国の方にインタビューをします。

生徒会の4つの柱のひとつである「合唱」

先輩の合唱にあこがれをもち、先輩の合唱に追いつけ、追い越せを合言葉にして取り組むことが校風になっている合唱のレベルは極めて高いものになっています。

ふるさと丹生川を愛する心を育む

五色ヶ原研修や乗鞍登山などに行きます。丹生川の子に郷土愛を育むことが、学校、家庭、地域の共通の目標です。将来丹生川を離れて住んだとき、自分が住む町の良さを伝えることができるよう、ふるさとへの知見を広めます。

地域参画

正月には出初式に参加し、地域社会人として凛々しい姿をみせます。今後は地域の大人と協働して、町づくりについて考えます。

地域貢献

飛騨ウルトラマラソン、クリーン作戦などのボランティア活動に参加し、地域に貢献する意欲と行動力を育んでいます。

岐阜市立黒野小学校

【ぎふしりつくろのしょうがっこう】

●住所　〒501-1121 岐阜市古市場20番地1
●TEL　058-239-0030
●児童数　492名

沿革

1873（明治6）年、御望村に拡充学校、黒野村に忘筌学校が設立される。その後、それぞれ御望学校、黒野学校と改称した。97年、両校が統合され、黒野尋常小学校に。1941（昭和16）年、黒野国民学校に改称。47年、黒野小学校となる。72年、創立100周年記念式典。今も校区に残る屋敷跡や細く入り組んだ道が、城下町だったことをしのばせる。地域のシンボルである黒野城跡には土塁や堀が残り、児童の学習の場にもなっている。一人ひとりを大切にする人権教育に力を入れており、PTAや自治会も学習会に参加し、地域全体で「互いに大事にする精神」を育む。学区内には岐阜大学があり、近年は外国籍の子どもたちが増加。国際色豊かになりつつある学校で、児童は多様な文化に触れながら、相手を思いやる心を学んでいる。

学校の教育目標　仲間と共に　自分をみがき　やりぬく

学校のたからもの①

黒野小の合言葉

黒野小学校では、「黒野小の合言葉」を大切にして生活しています。昨年度の児童会で、「思いやり」「感謝」「協力」「貢献」の「黒野小の合言葉」をもっとわかりやすくするために具体的な言葉を付け加えリニューアルしました。

思いやり…みんなを思う気持ちを大切にしよう。
感謝…「ありがとう」の気持ちを伝えよう。
協力…一緒にがんばったり、考えたりしよう。
貢献…みんなのために役に立つことをしよう。

この合言葉を、学校職員も日常生活で多く使っていくようにしています。

本校では、教育活動の中心に人権教育を位置づけて実践しています。これらの合言葉は、「自他尊重の精神の醸成」、「自尊感情の向上」に結び付いています。同時に、「自分を大切にすること」「他者を尊重すること」で、望ましい人間関係づくりができていくと考えています。

最近では、通学班の班長さんの多くが「おはようございます」の言葉とともに、班を素早く並べようと声をかけたり交差点を横断させようとしたりするなど、積極的に行動しています。そして、班員の子どもたちもそんな班長さんの呼びかけに応えようとさっと並ぶことが増えています。旗当番の方々からも「今年の通学班は安心だ」とか「昨年よりさらによくなった」とほめていただいています。合言葉をもっともっと日常的に活用しつつ、良き伝統として受け継いでいけるようにしていきたいと思います。

学校のたからもの②

人権課題を意識したかがやき学習

黒野小学校では、人へのまなざしを考える人権学習として、総合的な学習の時間や生活科の時間を中心として、人権課題を意識したテーマ学習「かがやき学習」を行っています。

地域の施設を訪問しての体験や地域の方々との交流を通して、一人ひとりに外見だけでなく、考え方や感じ方に違いがあることに気付き、共に生きることの意味を考え、相手を思いやることの大切さを学びます。そして、人にやさしい学校や社会をつくるために、自分ができることを見つけ、行動できる姿を目指しています。学年の発達段階に応じて、家族や地域の人々といった身近な人から、外国の人々、小さな子どもたち、そして高齢者、障がいのある方というように、少しずつ関わりをもつ対象を広げるようにしています。

こうした取り組みが、新聞等でも報道されている「いじめ問題」の解決につながっていくことを願っています。自分が発した言葉が、いじめになるとは思っていなくても、相手の受け取り方しだいでいじめとなる場合があります。そうならないためにも、こうした学習を通して、思いやりの心を忘れず、相手の立場に立って考える力を身に付けさせたいと考えています。

あいさつ運動

みんなで学びタイム

かがやき学習

運動会

学び合い

縦割りの遊び

学校のたからもの③

地域を学ぶふるさと学習

地元の黒野城・加藤貞泰公研究会のみなさんから、黒野の歴史を学んでいます。六年生は、旧黒野城下のフィールドワークを行い、要所で研究会の方たちの説明を聞きました。「ふるさと黒野」の歴史を知るよい機会になっています。また、四年生以上で、研究会の皆さんが作った問題で「ふるさと黒野検定」を実施しており、正答数によって賞をもらっています。

黒野地域の歴史や地域について知ることで、地域への愛着や誇りを確実に身につけた大人に成長してほしいと願っています。

池田町立八幡小学校

【いけだちょうりつ　やわたしょうがっこう】

●住所　〒503-2426 揖斐郡池田町八幡753
●TEL　0585-45-3106
●児童数　401名（5月1日現在）

沿革

学校の西側には池田山がそびえ、すぐ北側には夏になると蛍が飛び交う杭瀬川が流れています。また、校区には天然記念物であるハリヨが棲む池もあり、豊かな自然に恵まれた地域です。

【八幡ほかほか宣言】

1　八幡小のみんなが大切な仲間です。
2　一人一人を思いやる言葉づかい、行動をします。
3　みんなの笑顔であふれる八幡小にします。

学校の教育目標　夢をもち　笑顔で学ぶ子
～かしこく　やさしく　たくましく～

学校のたからもの①
四つの伝統「挨拶」「掃除」「合唱」「はりんこ活動」

朝から「おはようございます」と元気な声が飛び交います。生活委員が玄関で進んで挨拶したり、PTA学級委員の方が朝のふれあい活動を行ってくださったりしています。そして、学級で「あいさつ名人」と認められた子は、安全帽子に挨拶名人バッジを付けて登校しています。

掃除では、開始の音楽が流れると、校舎がしんと静かになります。縦割り班での掃除が始まります。上級生が下級生に掃除を教え、下級生は上級生のよいところを真似して掃除を行っています。

合唱は、朝の活動の時間に全校で合唱練習を行っています。十一月の先輩から学ぶ会と合唱交流会の「スクールフォーラム」で地域や保護者の方へ成果を発表します。

はりんこ活動は、一年生から六年生までの縦割り班であるはりんこ班で活動しています。この名前は、八幡地域の池に生息するハリヨの名前に由来します。仲間を思いやりながら、遊びや掃除、一年生を迎える会、遠足、大縄集会などで一緒に取り組んでいます。

こうしてみんなで協力して人と人とのふれあいを深めているのです。

【あいさつ名人バッジ】

学校のたからもの②
地域ぐるみで子どもたちを育てる世代間交流

「地域ぐるみで心豊かな子どもに育てよう」のスローガンのもと、八幡地域では平成二年から二十八年間、道徳を核として世代をこえて多くのチームで子どもたちを育てる「八幡ふれあい教育」を行っています。挨拶などを通して「関わる」。花壇作りや伝統行事への参加で「はぐくむ」。清掃活動やラジオ体操への参加を通して「整える」。これらのことを世代間のふれあいを大切にして活動しています。八幡地域を四地区に分け、それぞれで活動し、二月に「八幡ふれあい教育交流会」を行い、各地区での活動の成果を発表して、八幡地域全体で子どもたちの成長を推進しています。

学校のたからもの③
学校を支えてくださる地域ボランティア

学校の教育活動の充実を目的に、菊作りや畑作り、米作り、クラブ活動、地域安全、読み聞かせ、四年生の総合的な学習の時間のハリヨ学習、スクールフォーラムでの講師など、保護者の方や地域住民の方がボランティアとして積極的に学校に関わってくださっています。これらの活動を通して、お世話になった人への感謝の気持ちが育つようにしています。

スクールフォーラムでの全校合唱

畑ボランティアとの野菜の苗植え

車椅子バスケット

はりんこ練習

三世代交流での花飾り

学校のたからもの④
心を届けるまごころ菊作り

六年生が中心となり「菊作り」を長年にわたり行っています。特に昨年度は「人権推進校」に指定され、菊と一緒にまごころを届ける「まごころ菊」を核として、基本的人権尊重を身に付ける活動を行ってきました。

（児童の感想）

人権推進校として、この一年間で貴重な経験を積むことができました。まず菊作りです。菊作りでは、ボランティアさんたちの優しさに支えられ、きれいな菊の花を咲かせることができました。その花は、役場に来る人やまごころ弁当の配達先の高齢者の方がとても喜んでくださり、今でもこのときの笑顔が心に残っています。また、車椅子バスケットボールの体験もさせていただきました。この体験では、どんなつらいことがあっても諦めず、笑顔を忘れずがんばる生き方を講師の方から学ぶことができました。人権擁護委員の方の劇では、みんなが助け合ってあたたかい社会をつくっていこうと改めて思いました。これからの経験を忘れずに、これからも、みんなで思いやりあふれる八幡小を作っていきます。

まごころ菊作り

学校のたからもの⑤
被災地へのベルマーク運動

PTAの方と協力して、ベルマークを集め、東日本大震災で被害の大きかった岩手県の気仙小学校へ寄付をしてきました。被災地の整備が進んだので、交流は継続しますが、今年度からは本校の環境整備に当てることにして運動を続けます。

朝のふれあい挨拶

はりんこ遊び

白川村立白川郷学園

【しらかわそんりつしらかわごうがくえん】

●住所　〒501-5629 大野郡白川村鳩谷614番地の1
●TEL　05769-6-1366
●児童生徒数　116名

沿革

本校は、県内に２校しかない義務教育学校です。平成４年に平瀬中学校と白川中学校が統合して、新白川中学校になり、平成23年に平瀬小学校と白川小学校が統合して、小中一貫校白川郷学園白川小学校・白川中学校となりました。そして、平成29年、県内で最初の義務教育学校白川郷学園となりました。

学園の教育目標

自立　ひとりだち

共生　貢献

学校のたからもの①
一～九年生が一体となった縦割り班遊び

本校では、一～九年生が家族のように活動する縦割り班を編成しています。そして、その班で週に一回一緒に遊びます。遊びの内容は、九年生が中心となって決めますが、一年生も楽しめるよう、後期課程の生徒は、遊び方をとても工夫しています。また、月に一度は、村内の平瀬保育園、白川保育園の年長児も縦割り活動に参加します。後期課程の生徒たちは、前期課程の児童や保育園児と遊ぶ中で、純粋で素直な心を思い出し、前期課程の児童たちは、先輩の姿を見て、大きくなったときの憧れがもてる学園です。九人兄弟のような異年齢の人間関係を自然に学ぶことができる学園です。

学校のたからもの②
特別な教科 村民学「ふるさと白川郷」

各学年が白川村民憲章をもとに、今年度から義務教育学校ならではの特別な教科として、村民学「ふるさと白川郷」の学習を始めました。例えば、一年生では、各地区の探検活動を通して、白川村の美しさを体感します。四年生では、合掌造りのしくみを調べ、秋には実際に合掌造りの骨組みを作成します。七年生では、地域の担い手から熱い想いを聞き、白川をさらに愛する心を育てています。また、南部地区文化会館（旧平瀬小学校）を活用し、各学年、学園の分教室として、様々な活動を行っています。大変温かい地域の方々に支えられ、村民学「ふるさと白川郷」は進行中です。

学校のたからもの③
本格的な英語教育

世界へ発信できるグローバル人材の育成をめざし、一年生からＳＥＥ（Shirakawa English Education）を充実させています。毎朝の全校放送で、ＡＬＴと学園の教職員と一緒にイングリッシュシャワーを行っています。また、前期課程五、六年や後期課程では、英語によるコミュニケーション能力を育てています。その成果を、校外で発揮しています。例えば、六年生では、修学旅行で村長からジュニア観光大使に任命され、京都で外国の方に白川村を宣伝します。八年生では、世界遺産合掌集落がたくさん残る荻町で、英語で観光案内を行っています。最高学年の総仕上げとして、九年生では、夏休みに全員でオーストラリア研修に行きます。ホームステイや現地の中学校と交流する中で、身に付けた英語力を確かめています。

学校のたからもの④
児童生徒全員にｉＰａｄ導入

平成三十年度より、学園全児童生徒に一人一台ｉＰａｄが導入され、学習や諸活動で日常的に活用できるようにしています。また、教室内には電子黒板が導入され、より先進的な授業を行っています。今後も、情報モラルやプログラミング教育を充実させ、ＩＣＴを活用した教育をさらに充実させていきたいと思います。

学校のたからもの⑤
「ふるさと白川郷ウィーク」スタート

白川村のどぶろく祭りに合わせ、九月二十三～二十六日、十月十四～二十一日（土日含む）を休業日（ふるさと白川郷ウィーク）とします。その期間は、村民学「ふるさと白川郷」の学習と関わらせながら、地域の歴史や文化、伝統などを学びます。また、この休業期間は、学校運営協議会地域活動部が中心となり、地域の子どもたちを、地域の人材が育てることを目標としています。

合掌造り集落「荻町探検」（1年生）

ふるさと観光大使 訪京都（6年生）

南部地区文化会館でランチタイムコンサート（4年生）

山菜収穫（3年生）

保学一体となった「なかよし班遊び」

オーストラリア研修（昨年度）

iPadを活用した授業（9年生）

英語で観光案内（8年生）

大垣市立星和中学校

【おおがきしりつせいわちゅうがっこう】

●住所　〒503-0008 大垣市楽田町6-60
●TEL　0584-75-2660
●生徒数　539名

沿革

大垣市の北東部に位置し、揖斐川沿いにあり、北中学校と東中学校の北部が分離合併した区域で創立37年目を迎えます。校区内には、大垣北高校、大垣商業高校、大垣女子短期大学、岐阜経済大学などがあり、大垣市内の文教地区でもあります。主要道路は、南部を東西に国道21号線が走り、南北には、神戸街道、呂久街道などがあります。交通の便が比較的良く、田園地帯と新興住宅地との混在地域で、通学範囲はほとんどが3ｋｍ以内です。

学校の教育目標　厳しく　豊かに　いきいきと実践する生徒の育成

学校のたからもの①　福祉教育

本校では、「福祉宣言(平成三年)」の制定後、その生き様を目指し、学級、学年、生徒会活動、常時的なボランティア活動、総合的な学習の時間(福祉教育)などの場を通して、福祉を学び、心と身体を育て、学校だけでなく様々な場で実践できる生徒を育成しています。このような取組を通して、生徒たちは「福祉の学校」という誇りをもっています。

左図は福祉集会において、生徒会が中心となり全校生徒に示した「福祉の学校　星和」のイメージ図です。生徒たちは、福祉の心を支えているのは、「学級・学年・生徒会活動」と「常時的なボランティア活動」と考え、企画と取組を推進しています。その取組の中で、一緒に生活している身近な仲間を大切にする「心」と「行動」を育てていきたいと考えています。そして、この「心」と「行動」を土台に、「オレンジ（総合）」の時間を通して福祉の学習をしていきます。「福祉を知る」一年、「福祉を学ぶ」二年、「福祉を行う」三年と、校区にある福祉施設や特別支援学校への訪問、認め合い活動やグループセービング、学用品回収など、三年間を通して発展的に福祉を体験し、実践していく中で、身近な仲間だけでなく、地域の方々も含め、共に生きていく誰をも大切にできる人間を目指しています。

福祉の学習「オレンジ」

学校のたからもの②　学校を活性化させる生徒会活動

本校の生徒会活動は、仲間のよさに目を向け、みんなが楽しく生活できる星和中を創り上げていきたいという願いをもち、「開花～互いに認め、高め合える星和中～」をスローガンに、自主的・実践的な活力を生み出す取組や姿を創り出しています。学校生活の向上を目指す生徒会四本柱（歌声、先見、ボランティア、まごころ清掃の四つの活動）は、先輩たちから脈々と受け継がれています。特に、四本柱のそれぞれの取り組みについて、学級で新たな取り組み方法が生まれると、その後、学年や全校へ広がり、取組が進化発展して行く様子は、本校の生活基盤を創り出し、活動する喜びや達成感につながっています。また、仲間のよさを見つけ認め価値付ける「シャボン魂」の取組は、学級、学年、全校に広がりを見せ、仲間同士が支え合い、仲間から学び合える取組に発展してきています。

木の花保育園
清掃交流

福祉宣言

全校シャボン魂

まごころ清掃

グループ
セービング

英語の授業

学校のたからもの③　英語教育

本校の英語教育は、平成二十一年度「英語教育改善のための調査研究事業」の文部科学省や県教委の研究指定以降十年余り、校区の小学校（中川小と小野小）と連携して英語のコラボ授業を行うなど、先進的な取組を継続し、生徒の英語学習への意欲を高めています。平成二十六年度から二十九年度までの四年間を通して、「考えながら英語を話すことができる生徒の育成」を研究主題として、今まで学んだ表現を活用しながら対話的な言語活動を充実させることを大切にしてきました。生徒たちは、「即興的な会話」について、「している」「どちらかというとしている」と答えた生徒が平成二十九年度は八十七％まで向上しています。今後も生徒たちがより英語を学びたいと思う活動を仕組み、実践を継続していきたいと考えています。

リレーエッセイ 2

岐阜県ＰＴＡ連合会顧問
岐阜市立精華中学校ＰＴＡ　中村 敏徳

子どもの食育
～一人一役・我が家の工夫～

我が家は核家族で共働きのため、一人一役として、家族全員に役割分担があります。父の一役は毎朝の洗濯と洗濯物干しです。

一人一役は、子どもが小さいときから継続的に取り組んでいます。食事作りのお手伝いも、お米洗いから始まり、成長段階に応じて、今までの取組を踏まえて家族で話し合い、その都度仕事内容を見直しすることにより、子どもたちは更に主体的に取り組めるようになったと思います。現在の子どもたちの一人一役は、早く帰宅したら炊飯と夕食づくりです。

食事作りは、お風呂掃除などのお手伝いと違って、どんどん発達・進化するため、繰り返しほめることができます。その積み重ねが自信や自己肯定感を育むことにつながります。お母さんの役に立てるって嬉しいな、お父さんに喜んでもらえるって嬉しいな、「ありがとう」て言ってもらえるのって嬉しいな、そんな「嬉しい」が人を喜ばせたい、人の役に立ちたいという気持ちにつながっていきます。

また、食事作りのお手伝いは、出来上がりをイメージして作業を進めていきます。おみそ汁を作るにも、始めは材料を切るだけなど、言われたことをそのままするだけですが、やがてはおみそ汁づくり一連の作業を任せることができるようになり、頭の中で作業手順を考えるようになります。たとえ失敗しても、次は失敗しないように段取りを考えることができるようになります。その繰り返しが段取りを考え、見通しを持って物事を進める力を育てていきます。

この取組で何よりも嬉しかったことは、子どもたちに生活力が身についただけでなく、家族への感謝の気持ちが生まれ、役に立てて嬉しい、もっと人の役に立ちたいという行動につながっていること。そんな好循環が子どもの人生を幸せなものにしていくのではないでしょうか。

次回は… 長井 知子さん

わが家の宝物

飛騨市立河合小学校ＰＴＡ会長
渡邊 孝之

何事にもチャレンジするわが子

わが家は、中学校1年生の長女と小学校5年生の次女、そして小学校2年生の三女、祖父、祖母、妻、そして私の7人で毎日を楽しく助け合いながら生活しています。

わが家の宝物は、3人の子どもたちが、様々なことに対してチャレンジし、努力をしている姿です。

長女は、中学校に入り今までやったことのないソフトボール部に入り一生懸命に練習しレギュラーを獲得するために努力しています。部活動の無い日は、私と一緒になってキャッチボール、バッティング練習をしています。

次女は、剣道、陸上、冬になればスキーと多種多様の運動を行っており、休むことなく練習に参加しています。また、学習面では、ＥＣＣを自ら望んで学習し、1週間の休みと言ったら水曜日、金曜日、日曜日の3日間だけです。

三女も、剣道と冬にはスキー、そして学習面では次女と同じくＥＣＣを学び、小さな体で頑張っています。

剣道では、始めたばかりということもあり、思うようにできず、泣きながら練習している姿を、何度となく見てきました。

3人とも私から見ても決して良い成績を残しているとは思いませんが、成績以上に努力し、良い成績をとるよりも、チャレンジしている3人の姿が輝いて見え、とても誇りに思います。

今後も、家族全員で子どもたちをサポートし、努力している姿、チャレンジしている姿を大人になるまで、見守り続けていきたいと思います。

最後に3人の子どもたち

「レッツ・チャレンジ」

わが子のあゆみ
2018.9 No.454 初秋号

もくじ

表紙　高山市立丹生川中学校
1 学校のたからもの　岐阜市立黒野小学校／池田町立八幡小学校／白川村立白川郷学園／大垣市立星和中学校
9 わが家の宝物　渡邊 孝之
10 リレーエッセイ②　中村 敏徳
11 特集 創立七十周年記念第三十九回定期大会 記念講演「グローバル化時代の子どもと教育 ～これからのＰＴＡ～」前編　尾木 直樹（尾木ママ）さん
16 ＰＴＡのＡＢＣ ＰＴＡ役員の選び方①　恵那市立明智小学校ＰＴＡ／美濃加茂市立三和小学校ＰＴＡ／山県市立高富小学校ＰＴＡ
19 家庭教育応援団！㉜　岐阜県環境生活部環境生活政策課
21 「多様性尊重の教育⑦」みんな、いっしょに　安田 和夫
23 保健室ノート　鷲見 みどり
25 私の先生㉜　長瀬 実奈
27 子育て半生記　末岡 政則
29 楽しい読み聞かせ！①　多治見市立池田小学校ＰＴＡ
31 私が出会った1冊の本【続37】　瀬戸 良贈・伊藤 健太郎
33 話そう！語ろう！わが家の約束　中島 哲也・柳 江里子
35 子の思い 親の願い 教育の窓　大野 結加・小池 一真・兼山 遙音／野村 克仁・中村 久美／古賀 栞・森 久尚
40 保護者から先生へ贈る感謝の四〇〇字メッセージ 先生！ありがとう！②
41 親子ではてな
42 お試しクッキング　岐阜県学校栄養士会
43 ふるさとの伝承　可児市立東明小学校
45 きらり！キッズ！　白川町立白川小学校
47 夢中！熱中！我らが部活　郡上市立八幡西中学校
49 私たちのＰＴＡ　各務原市立中央中学校ＰＴＡ

機関誌「わが子のあゆみ」
平成30年度　初秋号
第70巻2号　通巻454号
発行／平成30年9月1日　岐阜県ＰＴＡ連合会
〒500-8824　岐阜市北八ツ寺町7
岐阜県校長会館内
電話／058(262)3257
ＦＡＸ／058(262)3259
Ｅメール／info@g-pta.com
ホームページ／http://www.g-pta.com
編集／岐阜県ＰＴＡ連合会広報委員会
「わが子のあゆみ」編集部
印刷／サンメッセ株式会社

創立七十周年記念
岐阜県ＰＴＡ連合会第三十九回定期大会
記念講演

「グローバル化時代の子どもと教育 ～これからのＰＴＡ～」前編

講師　法政大学特任教授
臨床教育研究所「虹」所長
尾木 直樹（尾木ママ）さん

二〇二〇年から変わる教育改革

本日の記念講演の演題は「グローバル化時代の子どもと教育」ということで、今日の世界でグローバル化が急速に進展しているというのは皆さん既にご存じかと思いますが、そういう中で、日本の教育の置かれている立場はどうなのかということ、二〇二〇年から戦後七十年最大規模の教育改革が行われるということ、皆さんご存じですか？

二〇二〇年から日本の教育はすっかり変わります。学力とは何かという定義も変わりますし、何よりも一番変わるのは、皆さんが受けてきたり、苦しめられてきたりしたセンター試験が無くなるということ。一点刻みの入試の得点なんか、どうでもいい時代になるんです。テレビのクイズ番組なんかで京大卒の知識人、芸人さんとかが答えるような、膨大な量の暗記だけでは全く役に立たない時代になるの。覚えただけの知識を問う単純な選択問題は試験に出なくなるんですよ。

その傾向は、すでに出てきています。東京の私立中学校の殆どが新しい入試問題になってきている。今年の高校一年生の子たちが大学入試を受ける時にはセンター試験が無くて、共通テストという全然違った形に切り変わります。二〇二四年になると、「記述式」試験の量がもっと増えてくるの。フランスほどではありませんけれど、一〇〇文字程度で書く試験問題が出題されるようになってくるの。僕たち世代から言うと、採点の基準はどうするのかとか、不平等になるじゃないか、とか思いますよね。それが、平等性って言うのは、問題にならなくなるんです。

高校入試をしている国は珍しい

実は高校入試をしている国は資本主義国家の中では、日本だけなんですよ。このこと自体を、親御さんたちとか先生方も、あまり知らないんです。そんなこと言っても、韓国の入試競争はすごいじゃないですかっておっしゃるかもしれませんが、韓国は大学入試がすごいんです。中学・高校の入試はしていませんよ。

教育界の常識ですが、中学・高校は一貫が良いんです。なぜかというと、お父さんやお母さんの立場からも実感されていると思いますが、この時期は反抗期に入ってきて、今までの子どもと全く様相が変わってきます。これは正しい成長ですが、この思春期の反抗期の六年間位を一貫して見ていないと、子どもの成長をしっかり見つめられない。しかも高校入試ではペーパーテストの一点刻みの得点で振り分けられる。これはもう最悪のシステムです。

日本の中高一貫教育の考え方

でも、戦後日本がスタートした時は、そんなつもりはなく、一貫教育で行こうとしていました。しかし、終戦直後の混乱の中、一時的な措置として実施していた試験制度をそのまま続行させてしまった。本来、経済が復興してきて右肩上がりになってきたら、そうではないシステムを取らないといけなかったのですが、そのまま現在まで引き継がれて来てしまって、わが国だけがこんなことになってしまった。

教育の無償化は、世界の共通認識

韓国では、ソウル市内だけでも約四十校の私立の小学校がありますが、入試は禁止。全て抽選なんです。それはなぜか。お金持ちの子は早期の塾なんかへ通い、トレーニングをして簡単に受かってしまう。しかし、韓国の法律には、全ての国民が均等に教育を受ける権利を保障すると書かれているんですね。教育の機会は平等でなければならない。つまり学習の意欲があって能力がある子は、どこまでも伸びていく。それを保障するのが国家の役割だって書かれているんです。

「教育は未来への投資」というのは、世界共通の認識です。教育は未来への投資だから、国家が全責任を持つのは基本。今、安倍首相は幼児教育の無償化を進めようとしていますが、世界では既に当り前。世界中が殆どそうなってきているんですよ。

例えばフランスでは、小学校一年生が三歳から始まります。ご存じの方は殆どおられないでしょう。日本のマスコミも、このような大事なことはしっかり報道していかなくてはいけないと思います。オランダでは、小学校が四歳から、韓国は五歳から始まります。世界の多くの国が義務教育を早期に始めているんです。

縦割りの学級編成

例えば、日本では学校が四月の始めに一斉に入学式迎えて、みんなが同一学年で進んで行きますよね。オランダでは、四歳になった翌月から小学校一年生が始まる、これが原則です。約二十五人の学級殆どみんな年齢が違

うので、「今日は中間テストやります」なんて出来ないんです。

フィンランドでは十六歳まで、受けている基礎教育が終わるまで、通知表に相当するものは子どもに渡すことはありません。

オランダでは四歳～六歳が同じ学年ですから、六歳の子は一番下の四歳の子の面倒を見て、真ん中の子達は、お兄ちゃん・お姉ちゃん達が面倒を見ている姿を見て、去年までは自分達が一番下だったけど、今度新入生が入ってきた時は自分達が面倒みなきゃいけないと、これを繰り返していくわけです。だから、リーダーシップがどの子にも育ち、様々なポジションからのことが分かるようになるの。でも日本は同じ年齢で横切りの学級編成なので、一歳違うだけで大きな違いが出てしまうんです。

取り残された日本の教育

そんなふうにして、わが国は世界から取り残されてしまっているんです。去年の一月に『取り残される日本の教育』という新書を出版したのですが、はっきり言って現状は、「取り残された」と、過去形なんです。

わが国のシステムがかなり遅れている中で、政府は二〇二〇年に教育改革を打ち出しているのですが、世界では、今年の二月にＯＥＣＤからエデュケーション２０３０というプロジェクトが始まりました。ＯＥＣＤというのは、欧米諸国・アメリカ・日本などを含む約三十カ国の加盟国からなる世界最大のシンクタンクで、そのＯＥＣＤが複雑で予測の難しい二〇三〇年の世界に対応できる問題解決型の能力を育成するための、今後の教育のあり方の展望をその中で纏めています。その結果が、日本でもようやく紹介されるようになりました。

日本では、二〇二〇年の大改革でセンター試験が無くなり、共通テストに代わると一点刻みの点数なんかはどうでもよくなるし、英語教育も小学校三年生から外国語活動として早期に開始されます。すると、日本もグローバル化が進んできたんだなあと思われるかもしれませんが、中国の一部地域の公立小学校では、既に一年生から週に四回以上の英語の授業を行っています。だから、中国の子どもたちは、五、六年生なったら日本人の同学年の子よりも英語を使いこなしています。

ＯＥＣＤの考え

ＯＥＣＤでは、これからグローバル化し複雑化する社会において必要とされる能力の一つに、グローバルコミュニケーション力をあげています。これは端的に言えば英語力のことですね。先ほどお話しした中国はＯＥＣＤに参加していませんが、早々に対応しており、韓国は一九九七年から必修化しています。

文科省も何とか追い付いていこうと、様々な手を打っています。その中で英語の教科化や、プログラミング教育の必修化がありますね。

変わり始めた日本の教育

もう一つ大事なのは、二〇二〇年の教育改革への移行期間というのがあって、学校では二年前倒しで始まるということです。だから岐阜の皆さんの学校でも、この四月から一部分始まっている所や、来年の四月から始めようという所などあると思います。学校の裁量で始まる時期は変わります。

これからは、授業そのものに「アクティブラーニング」という学び方を取り入れていきます。文科省ではアクティブラーニングという言葉をわかりやすく「主体的、対話的で深い学び」という日本語で表記していますね。こんなふうにして、プログラミング教育や英語教育だ、アクティブラーニングとか、この四月から始まっている道徳教育の教科化とか、どんどん日本の教育は変わっていくんです。道徳に成績を付けることに現場の先生方がどれだけ苦しみ始めたか、今、あちこちのテレビで取り上げ始めていますよね。僕も色々な番組でお話させていただいています。

二〇三〇年、何が変わる？

なぜ二〇三〇年に焦点が当てられているのか。ＡＩ（人工知能）の進歩を始めとした、経済構造の変革や自然環境の変化などが拡大されると予測されているんです。そういう状況がどんどん進んで行って、二〇三〇年には今ある職業の約四十九％がＡＩで出来る状況になるんです。サービス業なんかは、殆どＡＩがやると言われていますよね。だからついこの前も、大きな銀行が一万九千人の人員をカットするという報道がありました。

だけど日本の銀行はどこも黒字です。リストラがあるって言ったら赤字の時、って僕ら刷り込まれているんですけど、黒字なのにあちこちの業種でリストラが始まってくると。特にサービス業だとか窓口業務だとかは、ほとんどＡＩがやれる。九州のハウステンボスには、チェックイン業務の全てをＡＩがやっているホテルがあるんですよ。今後も、ホテルの予約受付電話、園内の案内や清掃など、ロボットやＡＩにどんどん置き換えるとのことです。

あるアメリカの研究者によると、二〇五一年には人間が行う全てのタスクを一〇〇％ＡＩがやれる時代になるというんです。一〇〇％と言うとそんなバカなって思うんですが、難しい医療の手術なんかもロボットがやるようになります。例えば腹腔鏡手術は、お腹に小さな穴を開けるだけで、切らずに済むから治りが早い。入院して二、三日して終りです。

実はＡＩが一番苦手だったのが、読解力の問題。東大の入試問題も殆どパーフェクトに解くそうですが、今は国語の問題ではミスってしまう。しかし、何と二〇五一年には博士論文も書くようになると言われているんです。これはね、凄まじいことですよ。

ＡＩとの共存時代

ＡＩ技術がどんどん進んで、医療関係だとか工場のロボットなんかが大活躍しているのは皆さんご承知ですよね。それが僕らの日常生活のすぐそばに、どんどん入ってくるのが、二〇五一年。すべてＡＩが出来るようになると、時代が変わってきますよね。僕たちの仕事が奪われるんじゃないかという不安を持つ方もいます。でも、これは基本的に杞憂ですよ。僕たちがロボットに委ねようと思わない限り大丈夫なんですから。勝手に取っていく訳じゃないですからね。人材が足りないなとか、キツくてロボットの力を借りた方がいいなという時に入れていけばいいわけですから、主導権は人間が握っている訳です。だから文科省なんかでは、「ＡＩとの共存時代をどう生きるか」という風に今後の課題を掲げています。

ＡＩは学習能力がありますから、記憶力や情報処理能力は使い込めば使い込むだけ、どんどん磨かれていきます。そういう時代に、暗記型の学力をどれだけ持っていても、殆ど意味がないんですよ。計算が早いとかもね。計算が出来なくてもいいというわけではないですよ。基礎基本というのはどんな状況でも

必要ですけど、そのスピードを競うとか知識の量を問うといった類のことは、ＡＩに任せていけばいいんです。

このような二〇三〇年の時代に向けた重要な三つの学力観は、「新しい価値を生み出す力」、「緊張とジレンマの調整力」、「責任をとる力」とされています。

「新しい価値を生み出す力」

「新しい価値を生み出す力」は「新しい製品やサービス、新しい社会モデルを他者と協力して生み出す力」「適応性、創造性、好奇心、他者をオープンに受け入れる心」と書かれています。

ここで重要なのは「新しい社会モデル」という言葉が出てきたことです。これは端的に言うとＡＩとの共存社会を指しています。ＡＩが多くの仕事を代替してくれるようになったら、私たちは何のために働くのでしょうか。自己実現だとか、新しい趣味をもっと深めたいとか、昔の「賃労働」では無く、働き方や働く意味が大きく変わってくるわけです。そんな近い未来の変化に向けた壮大な実験を、アメリカのカリフォルニア州やフィンランド、カナダ、スイスなどで行っているんです。東京の小池都知事もＡＩ時代からＢＩ（ベーシックインカム）時代へというスローガンを打ち出されましたが、ＡＩ時代がやってくると、次はＢＩ時代へ向かうのではないかと想定した実験です。

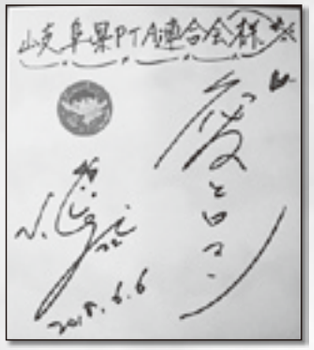
例えばフィンランドでは、働いていない方、ホームレスの方に月に七万四千円を支払いその人達がどういう生き方をしていくのか観察する、という社会実験を行いましたが、実験の結果、みんなが働き始めたというのです。生活が安定して安心すると、労働意欲が湧いてきて働くようになる、ということが分かってきた一つの面白い例だと言われています。ただ、他の国の実験も含め、まだ始まったばかりで、各国の結果発表はまだ先になると言われています。

「緊張とジレンマの調整力」

二番目の「緊張とジレンマの調整力」。具体的な例はまさに、六月十二日に予定されているアメリカのトランプ大統領と北朝鮮の金正恩委員長のシンガポール会談。こういう所で、どういう調整能力を発揮するのかというのは重要な力で、まさに今の時代を予言しているかのような定義だと思います。「平等と自由、自立性と地域利益、変革と継続性など様々な競合する需要のバランスをとる力」と詳細に定義もされています。これは国家間であったり企業間、地域間でもあったり、いろんな関係の調整能力が問われる。スケールが大きいですよね。

「責任をとる力」

三番目は「責任をとる力」。これは自己責任能力とはちょっと違いまして、「自らの行動の未来の結末を考慮する力」と定義されています。自分の仕事の成果について責任を持つ、今月の成績が悪かったのは自分の責任だと思える力だとか、それを課長や部長などに責任を持って報告説明が出来る力ですね。自らを客観的に評価できる力、さまざまな自分を受け入れられる自己肯定感とか、問題解決能力、適応能力などのことです。



続く

PTA★の ABC

連載(1)

PTA役員の選び方①

「ＰＴＡのＡＢＣ」では、昨年「ＰＴＡの生い立ち」を連載しました。今年度は「ＰＴＡ役員の選び方」を掲載します。

「ＰＴＡ役員の選び方」①

恵那市立明智小学校ＰＴＡ

一、本部役員の選び方

明智小学校のＰＴＡ本部役員の選び方について、平成二十九年度から平成三十年度をもとに説明します。明智小学校のＰＴＡ本部役員は、次の十九名で構成されています。

会長一名、副会長四名、専門委員長三名、学年委員長六名、監査二名、顧問（校長）一名、会計・庶務（教頭）一名、書記・庶務（教務主任）一名

このうち、選考委員会は会長一名、副会長四名、専門委員長三名、学年委員長六名の十四名で構成されます。

まず、十二月に次年度の副会長候補三名を第三学年の保護者の中から投票で選出します。三名のうち一名は女性で、次年度の母親委員会担当の副会長になります。過去にＰＴＡ本部役員を経験された方は、投票名簿から除外されますが立候補することもできます。その際は信任投票を行い、三年生保護者の過半数をもって信任とします。

母親担当以外の副会長のうち、一名は再来年度の会長候補に、もう一名は再来年度の副会長候補になります。この二名については、本部役員としての任期は二年になります。十二月の時点で翌年度の会長候補一名、副会長候補一名がすでに決まっているので、投票で新たに選出された副会長候補三名と合わせ、会長一名と副会長四名がそろうことになります。

専門委員会は環境委員会、広報委員会、母親委員会の三つです。それぞれ今年度の副委員長が次年度の委員長となります。副委員長は、それぞれ第一回の専門委員会で決まります。

学年委員長は、四月に行われる第一回学年委員会の中で決まります。第一回学年委員会に先立ち、四月の各学年の新学級の発表後、それぞれの学年から投票により学年委員を選出します。二学級ある学年では、父親二名・母親二名、一学級しかない学年では、父親一名・母親二名です。

歴代会長経験者、専門委員長以上の本部役員経験者、過去三年間の学年委員経験者、本年度の本部役員とその配偶者、市交通安全婦人役員は、学年委員選出名簿から除外されます。

学年委員は、専門委員会（環境委員会、広報委員会、母親委員会）の委員となります。どの委員会の委員になるかは、学年委員選出の際、選考委員会にて決まります。平成二十九年度は、環境委員会七名、広報委員会八名、母親委員会八名でした。

監査二名のうち、一名は前年度会長が、もう一名は母親委員会担当の前年度副会長が担います。

今後、徐々に児童数が減少し、やがてはすべての学年が一学級になると考えられます。今年度の選考方法のままでは、将来的に本部役員や学年委員の選考で候補者となる保護者が少なくなっていきます。そのため、ＰＴＡ会則の範囲内で本部役員の人数を少なくしていったり、会議や活動内容を絞り込み、負担を軽減したりする対策をとる必要があります。やがては、選考方法や組織自体の見直しも必要となるでしょう。

ＰＴＡ役員選出カレンダー（平成二十九年度役員決定の実際）

①次年度本部役員選考に関わる事前調査
三年生保護者対象　十一月十四日～十一月二十一日

②次年度副会長選出のお願い（投票依頼）
三年生保護者対象　十二月二日～十二日

③開票（次年度副会長選出）
本部役員会　十二月七日

④第一回ＰＴＡ本部役員（候補）会
学年委員長は未決定　四月四日

⑤学年委員選出のお願い（投票依頼）
各学年保護者対象　四月六日～四月八日

⑥開票（学年委員選出）
第二回ＰＴＡ本部役員（候補）会
四月十一日

⑦ＰＴＡ役員総会
本部役員・専門委員・学年委員

（候補）　四月十八日
⑧第一回学年委員会
　学年委員が参加　四月十八日
⑨第一回専門委員会
　学年委員が参加　四月十八日
⑩第三回ＰＴＡ本部役員（候補）会
　ＰＴＡ総会に向けて　四月十八日
⑪ＰＴＡ総会
　すべての候補が承認を受ける　四月二十二日

二、学年委員の選び方

①選び方
　四月に各学年ごとに選挙を行います。
　学年委員の人数は、単学級では父親一名・母親二名の計三名、二学級の学年では父親二名・母親二名の計四名となります。
　学年委員が専門委員会（広報委員会・環境委員会・母親委員会）の委員となります。選挙の際、歴代会長経験者、本部役員（専門委員長以上）の経験者、過去三年間の学年委員長・学年委員・母親委員経験者、本年度の本部役員、本年度の本部役員の配偶者、恵那市交通安全婦人役員者は除外されます。但し、立候補することもできます。その際は、過半数の信任をもって候補となります。
②その他
　学年委員長は、学年委員経験者のいる本部役員会で委員会の内容等の説明を受ける他、他の学年委員や各学年主任（学校職員）と相談して委員会を進めます。

三、ＰＴＡ役員選考上の課題と目指すＰＴＡ

　現在の二年生・三年生を最後として単学級が続き、しかも児童数が減少していく見通しです。今年度の選考方法をあてはめていくと、将来的には本部役員や学年委員の選考で候補者が少なくなっていきます。そのため、当面は、ＰＴＡ会則の範囲内で本部役員の人数を少なくしていく方法や、会議や活動内容を絞り込み、負担を軽減する方法をとる必要があります。
　やがて選考方法自体を見直し、ＰＴＡ会則を変更しなければならなくなると考えています。
　本部役員や学年委員をはじめＰＴＡ会員の皆さんは、学校教育に大変協力的です。ＰＴＡの総力で「地域とともにある学校」づくりを進めていきます。

「ＰＴＡ役員の選び方」②
美濃加茂市立三和小学校ＰＴＡ

　私達の小学校は小規模校で児童数、世帯数も少なく、どの保護者もＰＴＡ役員、活動に対し前向きな方が多いように感じます。

一、本部役員の選び方

①選考委員は前年度の本部役員五名で構成されます。
　選考時期については、十一月頃、会長と母親代表でお願いする方を選考しておいて、十二月の本部役員会で正式に選考します。一月中旬に再度本部役員会で候補者にお願いします。
②選ぶ役職は会長、副会長、母親代表、父親委員三名（委員長は互選）母親委員三名（委員長は互選）です。
③候補者の選考と基準については、会長、母親代表は基本的には最高学年から候補者を選びますが、既に会長職、母親代表職を経験している保護者ばかりの場合は、下の学年から候補者を選考します。すべての学年が複式になるので父親委員、母親委員は複式の学年から父親委員一名、母親委員一名を選考します。会長職、母親代表職以外は何度も役員をやる場合もあります。任期はどの役職も一年間です。
④候補者へのアプローチ、決定までの手順は、事前に打診し、一月の本部役員会で選考しその場で候補者に電話しお願いして承諾を頂きます。
⑤候補者に各役職の内容を説明する事については、どの保護者の方もおおよその仕事の内容はご存じなので、年度末の新旧合同役員会で引継ぎ説明し了承して頂いています。
⑥立候補者が出た場合はその方に役員をやって頂きます。
⑦任期については単年度制です。複数年の希望があれば希望者にお願いします。
⑧免責事項は特に取り決めはありませんが、保護者の家庭環境は加味します。
⑨就任の承諾を頂けない事がほぼない状況なので、私達の学校については特に問題が無いと思います。

二、学級委員の選び方

①学級委員という役職は数年前に無くしました。児童数、世帯数の減少に伴って役員を減らす必要があったため、父親委員、母親委員を各学年から選出し、学級委員を兼ねています。

三、ＰＴＡの役員選考での課題について

①役員の選考で私達の学校は特に問題はありませんが、児童数、世帯数の減少で毎年役員をする事が多少負担かもしれません。しかし学校行事、ＰＴＡ行事の際はどの保護者の方も時間を作って積極的に参加しています。また、「一度は役員をやらないと」という気持ちで皆さんいてくれるようです。
②私達の学校は小規模校ならではの児童・先生・地域の皆さんが一つのファミリーとなってＰＴＡ活動をしています。資源回収、環境整備など人手がいる場合は地域の方が率先してお手伝いして下さいます。
　保護者、地域の方、そしていつも身近で児童に接してくださる先生方と一つになって、子ども達が安心して学べる環境を提供してあげる手助けをするのがＰＴＡだと思います。

「ＰＴＡ役員の選び方」③
山県市立高富小学校ＰＴＡ

一、本部役員の選び方

①指名委員会について
　本校では、指名委員会のメンバーがＰＴＡ規約で決まっているため、四月の時点で委員の選出が終わっています。役員は、各学年（六年生は除く）の正副委員長と子ども会育成役員、本部役員の合計十四～十九名。各学年の正副委員長は両方でも、どちらか一名でもよいので、人数に変動があります。なお、平成三十年度からは、学年正副委員長としていたのを学年代表一名、子ども会育成会役員が五名から三名に変わるので、指名委員の人数も十二～十三名ほどになります。
　また、指名委員会の長は、第三者機関である子ども会育成会委員長にお願いし、第一回指名委員会（九月中旬）にて承認をもらいます。
②候補者について
　基本的に立候補で決定していますので、選考基準などはありません。立候補者がいない場合は、指名委員で地道に声かけなどを行い、少しでも興味がある方には説明会を開き、納得していただいた上で立候補していただいています。（学年、地域、役員歴等の基準は設けておりません。）
③役職の内容について
　会　長：会務を統括し、総会及び各会の司会をする。また、監事を兼務する。
　副会長：会長を補佐し、必要に応じ会長を代行する。
　書　記：会務を担当する。
　会　計：会計事務を担当し、監査を経て総会にこれを報告する。
　会議の日程や回数等については、年度当初の総会の資料に明記されているので、特に説明は行っておりません。市ＰＴＡ等で大きな役職等に決まっている時には、必ず説明するようにしております。
④任期について
　任期は基本的に一年間ですが、再任も差し支えないため、複数年行っていただいても問題ありません。

二、学級委員の選び方

①候補者について
　基本的には、長子の保護者からやっていただいていますが、長子で選出もれされた方のみ、調査票を書いていただいた時点で、下のお子さんの学級で立候補の意思表示があれば、その学級での選出を認めています。立候補者が規定人数に足りない学級、立候補者がいない学級では、話し合いの後、くじ引きにて決定します。
②対象となる委員会
＊厚生施設委員会＝学校給食・レクリエーション・施設の改善促進・その他福利厚生に関する事項
＊文化委員会＝会報の発行・図書の購入・その他文化向上に必要な事項
＊ほほえみ委員会＝保護者の教養及び文化向上に関する事項の三委員会です。
※この他に、学校外における児童の生活向上、学校及び各地区との連絡調整に関する事項を担当する地区委員会があります。（各地区から選出されるため、前述の三委員会とは別組織となります。）
③委員会等の内容について
　選出後に、旧役員が説明を行うことになっています。今後は、立候補者が増えるようにするため、学級委員選出前に文書での説明を行うようにしていきたいです。
④任期に関わって
　複数年（回）行うことも可能なため、複数年やっていただける方がみえると助かります。
⑤免除事項
　免除の対象者は以下の通りです。
・過去の本部役員・子ども会育成会役員経験者
・本年度本部役員・子ども会育成会役員
・対象児童での学級委員経験者
　他には特に免除事項は設けておりませんが、各学級で話し合いをしていただき、妊婦の方や出産後すぐの方、引っ越しが決定されている方等は免除になった実例はあります。
⑥就任の了解が得られない時の対処は学級に持ち帰り、再度話し合いの上決定します。二十九年度、ある学級で了解を得ることができない事例がありましたが、その後立候補者が出たため、その方にやっていただきました。

三、その他

〈課題〉本部役員の選出では、立候補者が出ない場合の選出方法を決めておく必要があると感じています。
〈理想のＰＴＡ〉ＰＴＡ活動に関心をもっていただき、出来ることを出来る時に、全ての会員が参加していただけるような活動を目指しています。

家庭教育応援団！～「家庭教育」実践編～

実践紹介1　高山市立松倉中学校

タイムリーな「話そう！語ろう！わが家の約束」運動

☆主催者の願い☆

中学校入学まで2か月を切った2月、4つの小学校（新宮小学校、南小学校、花里小学校、西小学校）から入学予定の6年生に中学校生活への心構えを親子でもってもらい、安心して中学校生活をスタートしてほしい。

◇新入生入学説明会において・・・

・生徒会制定のＳＮＳの約束について説明を聞く
・岐阜県家庭教育啓発チラシが配付され、「話そう！語ろう！わが家の約束」運動について理解

〈松倉SNS安心ルール〉

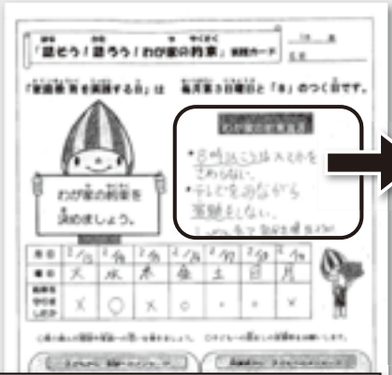
1. うわさや個人情報、悪口など、人を傷つける事を書かない。
2. 自分以外の画像を送らない。
3. 塾や習い事の迎えなど家族とのやりとり以外は夜9時から朝6時までやらない。
4. 「家の約束」を守る。（例）・20時以降禁止・テスト期間禁止・家族のいる部屋で使う　など

◇いよいよ取組・・・

・入学説明会のあと1週間、小学校一斉に実践
・同時期に、中学校在校生（1・2年生）も実践

◇取組後・・・

・実践カードを小学校の担任に提出し、担任の励ましの言葉入りカードが返却される。
　＊「自分自身を振り返り、成長につなげられそうですね。」
　＊「中学生になってもこの調子でがんばってね。」 等
・すべての実践カードは回収され、中学校へ提出。
・中学校1・2年生も同時期に取り組み、実践カードを中学校の担任に提出。



・八時以降はスマホをさわらない
・テレビを見ながら宿題をしない

８時以降スマホをつかってしまったり、テレビを見ながらやってしまったりすることがあったので、中学校へ行くまでに、必ずやめたいです。
（小6児童）

「必ずやめたい！」を信じて見守りたいと思います。がんばってください。
（保護者）

学びポイントは・・・

①タイムリーで必然のある「約束運動」＋家庭内のコミュニケーションもアップ
②中学校区全体で取り組み、効果アップ
③新入生だけでなく、在校生も取り組み、進級する意識をアップ
④約束運動を活用した見事な小中連携

中学校入学を控えた6年生児童とその保護者は希望と同時に不安も抱えています。そんな中、1週間とはいえ、中学生の家庭生活を先取りすることによって、親子でコミュニケーションを図りながら生活習慣の見直しができました。その結果、異なる小学校から入学しても、中学校生活への意識が同じ段階まで高まった状態で中学校生活のスタートを切ることができました。

現在、県内全域において、「話そう！語ろう！わが家の約束」運動への取組や、学びのある家庭教育学級が開催されています。その様子は次号以降、順次紹介していきます。

実践紹介2　「企業内家庭教育研修」　in 美濃地区

企業内家庭教育研修とは

家庭の教育力の向上と地域社会全体での子育ての推進を目的に、企業・事業所と連携しながら、子育て中の親だけでなく、これから親になる若い従業員、子育てが一段落した従業員、管理職など幅広い層を対象として開催している研修です。昨年度は県内21事業所において25講座が開催され、1,308人が研修を受講しました。

今回は、美濃地区で実施した企業内家庭教育研修を紹介します。

日　時　平成 30 年 6 月 9 日（土）10:30 ～ 11:30
場　所　八幡信用金庫（郡上市）
テーマ　「ワーク・ライフ・バランス　八信スタイルって？！」
講　師　中濃県事務所振興防災課　加藤 小百合　後藤 由佳

ワーク・ライフ・バランスとは
私生活の充実により仕事がうまく進み、仕事の調子がいいからプライベートも潤う。仕事と私生活が互いに刺激し合い、いい影響を与え合う。仕事と私生活の好循環。

研修概要

昨年度開催した「ワーク・ライフ・バランス～心も身体もしなやかに～」の第２弾として、従業員がやりがいをもち、仕事も家庭も充実した毎日を過ごすことができるよう、ワークショップを取り入れ「八信スタイル（職員として目指すスタイル）」を考えました。

参加者の感想（一部抜粋）

・普段考えないようなことも、人とコミュニケーションをとりながら考えることができた。
・プライベートと仕事を充実させるヒントを得た。
・家族との時間を大切にしたい。
・八信スタイルを実行していきたい。
・他の支店の方、普段交流できない方とも話ができてよかった。

岐阜県では、企業内家庭教育研修のコーディネートを行っています。研修テーマに合わせ、講師派遣も行います。各県事務所振興防災課家庭教育担当者までお気軽にお問い合わせください。

県のホームページでは、他にも家庭教育学級の情報を発信中!ぜひご覧ください!!

岐阜県　家庭教育学級　検索

－掲載内容－
・平成23～29年度家庭教育学級の実践
・家庭教育学級運営マニュアル「みんなで子育て」
・家庭教育プログラム「みんなで子育てⅡ（乳幼児期編）」
・家庭教育プログラム「みんなで子育てⅢ（小・中学校編）」
・家庭教育プログラム「みんなで子育てⅣ（次世代編）」

お気軽にご相談ください!
家庭教育学級や企業内家庭教育研修等、内容から講師選定までご相談に応じます。

環境生活政策課　☎058-272-8752（直通）
西濃県事務所　☎0584-73-1111（内線219）
中濃県事務所　☎0575-33-4011（内線210）
可茂県事務所　☎0574-25-3111（内線208）
恵那県事務所　☎0573-26-1111（内線209）
飛騨県事務所　☎0577-33-1111（内線235）

【多様性尊重の教育⑦】シリーズ

みんな、いっしょに

不安や心配と向き合い、貝になる

岐阜聖徳学園大学教育学部特別支援教育専修　教授　安田 和夫

様々な不安と向き合う子どもたち

現代の複雑な人間関係の中で、様々な不安と向き合うことにより、過剰なストレス、息苦しさやイライラ感を感じ、様々なサインが出てきます。これは大人だけでなく、子どもたちにも多く見られることです。ことばで、うまく自分の状態を説明できない子どもたちのサインに気づいてあげることは、周囲の大人の役割といえましょう。

「落ち着きがなくなる」「初めての場所、初めての経験に対して極度に怖がる」「緊張がおさまらず、震え始める」「何事にも集中できない」「体がこわばり、力が抜けない」「寝つきが悪い」「呼吸が浅くなり、息苦しそう」等、そのサインは様々ですが、早い時期に気づいてあげることで、悪化することを防ぐことができる可能性があります。

小さい頃の経験がきっかけになって

知り合いのAさん（二十歳）は、小学校に入学する前、幼稚園の年長さんの時から、自宅以外では、面前で声を出して話すことができず、「選択性緘黙（場面緘黙）」と診断されました。安心できる家族と自宅で話すことは自由にできるのですが、一歩、玄関を出ると声が出せないのです。決して、話したくないのではありません。

Aさんは、心優しい物静かな性格で、決して周囲を困らせるような子ではなかったのですが、幼稚園の頃、大好きなお母さんとバスに乗ってお出かけした時、うれしさのあまり、いつもより大きな声でお母さんにお話していたそうです。その時、車内で知らない男性から、「静かにしろ」と怒られたそうです。即座に、お母さんが「すいません。ご迷惑をおかけしました。」と頭を下げているのを見たAさんは、小さいながらも、自分のせいでお客さんやお母さんに迷惑をかけたことが強く心に残ったそうです。それが、直接的なきっかけだったのではないかとお母さんは振り返っておられます。このように小さい頃の経験がもとになり、その後、人と話すこと、慣れない場所に行くことに大きな不安を覚え、防衛的な態度になってしまうことがあります。

だれでも、初対面の人に会うときなど、自分が慣れない環境で、どう振る舞えばよいのかわからず緊張するなど、不安や心配を感じるのは当たり前かもしれませんが、選択性緘黙や分離不安障害などの不安障害の場合、周囲の人からみて、納得できる理由や状況ではないのに、不安や心配を感じてしまうのです。

いじめやからかいを受けて

Aさんの場合、幼稚園から一緒の仲間で過ごした小学生時代は、学校側の配慮もあり、話せなくても変わらない友達関係を維持し、一緒に校庭で遊ぶなど、安定した学校生活を過ごすことができていましたが、いくつかの小学校から生徒が集まってくる中学校に進学すると、「話せないAさん」の噂が話題となり、「話してみろよ。」「本当は話せるって聞いたぞ。」と興味半分でからかってくる級友の言動が強いストレスとなり、不登校になりました。

このままでは欠席日数が増え続け、高校入試にも影響が出るのではないかと考え、みんなが登校した後、そっと登校し、保健室や相談室で勉強する日もありましたが、誰かに会うのではないかと気が休まることがなかったそうです。

貝になると決めた

Aさんは、好奇な視線やからかいから避けるために、自ら「貝になる」と決めたと言います。「話がしたくても、声にならない」というもどかしさは、いつしか「話さない、声を出さない」というような頑なさが加わっていった結果でした。

身体はいつも固く、見るからに緊張して、防御スーツをまとっているようでした。顔面は蒼白で、時々、震えているように見えました。それでも、Aさんは、隠れるように学校に登校しました。大好きなお母さんが悲しむことのないように、心を奮い立たせて、毎日登校したのです。

二十歳になるAさんは、中学校当時のことを断片的にしか、覚えていないそうです。思い出したくないのかもしれません。今では、在京の大学に進学し、自分の好きな勉学に励んでいます。小中学校時代を知らない学友とは、普通に話しています。まるで貝になった頃が嘘のように。

だれでもなりうる不安障害

実は、私も三十歳の時、過換気症候群（過呼吸症候群）になった経験があります。七月の中体連大会の前日、部活動の指導中、「先生に勝って、明日の試合に出たい。」と意気込む生徒と実践形式の練習をしていた時に、突然息苦しさを覚え、その場で倒れ込んでしまったのです。意識はあるものの、体が硬直しはじめ、息が浅く荒くなる中で、このまま自分は死んでしまうのではないかとさえ思うような恐怖を感じました。

幸いに、ベテランの養護教諭の見立てから、すぐに適切な処置をとってもらい、しばらくして、体も心も元に戻っていくのですが、数年、また同じ発作が起こるのではないかとの不安と戦いました。当時、いろいろなことを抱え込み、自分の容量を越える仕事と悪戦苦闘中で、知らない間に、心も体も折れかかっていたのかもしれません。

当時、診てもらっていた医師から「なんでも自分で抱え込み、自分で解決しようと思うから、だめなんだ。不安も心配もあって当然。自分の限界も知って、もっと周囲に頼ることを覚えなさい。そうでなければ診てあげませんよ。」と、突き放されたことがあります。大切なことを気づかせてくれたその医師には今も感謝しています。

多感な子どもたちには、もっともっと、細心の見守りや配慮が必要です。周囲の気づきと理解、素早い対応、そして、必要に応じて専門医やスクールカウンセラーなど心理職に相談することも大切です。子どもの心が貝になり閉ざされる前に。

保健室ノート

つながりあって、わかりあっていく

岐阜市立芥見小学校
養護教諭
鷲見 みどり

「いつも何しとるの。」「誰もいないと暇やよね。」と、子どもから尋ねられることが時々あります。

一日のどこかで、こんな時間を過ごしています。

休み時間の少し前に一年生の女の子が「○○ちゃんとぶつかって、肘が痛い。」と、訴えてきた。その子の事情を聞いているうちに、保健室の入口付近に人だかりができていた。それぞれに自分の訴えをつぶやいていたが、私には聞き取れない。「順番なので待っててね。けががひどい人がいたら、お先にだよ。」と言うと、入口付近にいる数人の子は顔を見合わせながら列になっていった。二番目は、青空広場（校舎の北側にある広場）で頭を打ったと後頭部をおさえてきた一年生の女の子。話を聞きながら確認していくと、痛がっているのは首。「ここは首って言うんだよ。」と言いながら処置をしているところへ、二年生の男の子が飛び込んできた。「痛い！痛いよ～。」と連呼する。顔面に赤い部分が数カ所あったのでアレルギーを疑い、事情を尋ねても「痛いよ～。」が続く。全身を確認してみると赤くなった部分は時間が経過しているようにみえた。インターフォンを使って担任の先生に確認をすると、昨日家族で出かけた時にけがをしたらしい。あれあれ、この子が三番目になっちゃった。本来三番目に待っていた子の事情を聞くと、学級遊びで鬼ごっこをしていたら、捕まえられそうになり、鬼に服を引っ張られて転倒した。けがも痛いけど、謝ってもらっていないからすっきりしないとのこと。担任の先生に自分で言えるかと尋ねると、首を横

自分と向き合う姿

にふる。「一緒に行くけど、まだ（順番を）待っている子がいるからみんなが終わってからだよ。」というと、今度は首を縦に大きくふった。五・六・七番目の子たちは擦り傷で、お決まりの対応をした。八番目の子はというと、休み時間の開始時から保健室にいて他の子と雑談していた子。頭痛を訴えるけど、何かあるのかなとも思う。ゆっくり話を聞くことにして、検温と来室カードの記入を促した。さきほどの本来三番目の子と一緒に教室に向かおうとしたところへもう一人。「ストレスで・・・。休み時間に来たけど、忙しそうやったで、今、来た。一時間休んだら教室に行くで、休ませて。」と、四年生の男の子。

現在、芥見小学校のほとんどの子が、運動場でけがをした時に、自分で傷口を水で洗うことができます。以前は、けがの来室者がとても多かったのですが、自分のけがと向き合うことで今の自分を理解しようとする取り組みを続けたら、けがによる来室者は減りました。子どもたちは、自分の状態が理解できるようになってきたのです。また、保健室に行く必要があるかないかを自分で決めることもできるようになってきています。もちろん、迷った時には保健室へ来ることを勧めていますが、自分ができる初期対応を仲間に広めている子も増えてきています。

さて、芥見小学校の保健室は北舎の西側で、南舎の東端にある職員室とは対角線の位置（私の歩数で一一〇歩の距離）にあります。職員室から離れているので、保健室での出来事は職員室でたくさん話します。聞いてくださる先生方がいてくださるからです。そして、放課後の職員室では学級での出来事や児童の情報を聞くことができます。保護者の方ともつながりあっていきたいと思っています。

仲間とともに自分と向き合う姿

自分のアサガオをみつめる姿

笑顔の魔法

瑞浪市立瑞陵中学校 教諭
長瀬 実奈

私が教師を志したのは高校時代でした。もともと人に教えることに喜びを感じていた上に、幼い子どもが好きだったことが、教職の道を選択させました。今思い返してみると、小中学校時代にお世話になった先生方に、私はたくさんほめていただきました。それがきっかけとなり、教えることが好きになったのだと思います。

算数が得意だった私は、いつも仲間より早く問題を解き終えていました。ふと隣の席を見ると、解き方がわからず困っている友人がいました。私は彼女に笑顔で語りかけ、解き方のポイントをそれとなく話しました。すると、その子は自分の力で問題を解くことができたのです。その時彼女が返してくれた「ありがとう！」の一言と、大切なものを発見したような嬉しそうな笑顔は、今でも忘れられません。

その様子を見ていた担任の先生が、私をほめてくださいました。私はますます嬉しくなり、周りの仲間に「できた喜び」を味わってほしいと思うようになりました。

中学生になっても、困っている友人がいると積極的に声をかけ、「助けてあげたい」という気もちを行動で表しました。私が友達に教える度に、多くの先生がほめてくださいました。それが私の大きな自信につながりました。そして、それが将来の夢になりました。

その後、私は迷わず教員の道を選択しました。大学卒業後、夢であった教員になることができたのです。

最初の赴任地は、実家からずいぶん離れた垂井町でした。一人暮らしの経験がない私は、新しいことばかりの毎日をただがむしゃらに過ごしていました。

そんなとき、同僚の先生方が声をかけてくださり、新採教師の私を物心両面から助けてくださいました。自分の仕事がたくさんあるにも関わらず、手取り足取り教えてくださる先輩先生のおかげで、不安が吹き飛びました。そんな先輩方の姿を見て、「後輩を思いやれる教師になりたい」と心から思いました。

子どもたちのために働くことが素晴らしいことだとは、もちろん私も十分知っているつもりでした。しかし、実際に忙しい毎日を過ごす中で、後輩のことを気にかけることができる心のゆとりをもつことは簡単なことではないと改めて痛感したのです。まるで自分のことのように親身になって相談に乗ってくださった先輩先生。子どもたちに対してはもちろん、私のような若手の教師にも配慮ができる教師になりたいと思うようになりました。私の次の夢がみつかったのです。

「あなたの笑顔は素敵です。大切にしてください。」

校長先生からもこんな言葉をいただきました。この言葉を聞いて、思わずはっとしました。上手くいかないことが多かった時、私はついつい眉間にシワを寄せてばかりいたのです。校長先生の言葉がそれに気付かせてくれました。

子どもたちの悪いところばかりが気になって、笑顔で接する余裕がない自分が恥ずかしくなりました。そして、私が小中学生だった頃の先生方の笑顔が私の中に蘇ってきました。よいところをほめてくださった先生の顔は、とても温かく美しかったことが思い出されてきました。

教師になり、仕事に押しつぶされそうになることが多い今こそ、あの笑顔が必要です。子どもたちのよいところを意図的に見つけたり、少し距離を置いて客観的に自分を見つめたりすることが必要だと感じました。

それ以来、子どもたちと接するのが一層楽しくなり、生活にもゆとりが生まれました。不思議なことに、私が笑顔でいるとクラスの子どもたちも自然ととびきりの笑顔を返してくれます。一人ひとりのよいところをたくさん見つけると、教室の中が優しい言葉であふれます。まるで夏の夜空を一気に彩る花火のように、笑顔は子どもたちの中に一気に広がりました。子どもたちには、温かい言葉で話し、心をゆるし合える仲間づくりをしてほしいと願っています。

一教師として、これからも「笑顔を大切に、温かい仲間づくり、学級づくり」に取り組んでいきます。そして、これまでご縁があった先生方に感謝をしながら、たくさんの子どもたちと一緒に生活し、たくさん褒めていきたいと思っています。

子育て半生記

親から子へ

養老町立池辺小学校PTA会長　末岡 政則

私は、高校を卒業するまでの一八年間を山口県の萩市で育ちました。父は、私が高校二年生の時に他界し、母と二歳年上の兄の三人家族でした。私は、家計の都合もあり高校卒業後、滋賀県にある紡績工場で働きながら、大垣の情報処理の専門学校に通いました。卒業後、岐阜市にあるアパレル関係の会社に就職でき、養老町に家を構えました。

幼少期の私は、どちらかというと大人しい性格でしたが、海・山・川が大好きで、休みになると、海に潜って魚介類を獲ったり、山菜を採りに行ったり、川で魚釣りをしておりました。両親の趣味だったので、私も大好きになりました。（今では、禁漁区でしっかり管理されておりますが…。）

でも、楽しい事ばかりではありませんでした。自然に触れると、自然の恐ろしさを感じる時が何度かありました。ある日、父と兄と私の三人で川に釣りへ行った時の事です。

釣っている最中に雨が降ってきました。その場所では、小雨程度の雨でしたが、川の水面が少し濁りはじめ、落ち葉がどんどん増えてきました。その時です。父が、直ぐ高い所に避難すると言いました。兄も私も必死で高い所に登りました。数分後に川を見ると、先程まで居た場所が濁流に飲み込まれていました。

もし、判断が遅れていたら間違いなく死んでいたかと思います。

海でも父が、風が出てきて白波が立つのが増えると、危ないので海から直ぐ離れるよう指示してくれました。

何時どこで、何が起こるか分からないから、常に危険を察知する事が、非常に大切だと父に何度も教えられました。

私は、今でも魚釣りが大好きで、暇な時には川で、岩魚やアマゴを釣りに出かけます。皮肉にも雨降りの日の方が釣果は良く、教えられた自然の怖さの事を考えると、ほどほどで釣り終えるようにしております。

その教えがあったからこそ、今まで無事でいられたのだと思います。

現在私には、小学四年生と二年生の息子がおります。息子達にも釣りを教えようと思いますが、まだ幼いので養鱒場等の管理釣り場へつれて行きます。何故か私より沢山釣る姿を見ると、逆に教えてもらわないといけない気がします。魚達は、擦れていない子どもたちが好きなようです…。

話がそれましたが、状況や危険を察知して色々な問題を未然に防ぐ事は、自然の恐さ以外にも沢山あります。

何をしたら、どうなるのか？

これをしたら、相手が不機嫌にならないか？この言葉を言ったら、相手が傷つかないか？

等々、常に後先を考え行動・言動する事が非常に大切です。

危険なことを、危険と認識していない事や、悪い事を、悪い事と思っていない事、が一番の問題です。思いやりを持ち、相手の事を考える事が相手との問題回避になります。

いつか、子どもたちにも父が教えてくれた事や、私が思う気持ちをしっかり伝え、導いていこうと思います。

最近では、自然災害が予測しづらく、恐ろしい災害が増えてきました。雨風だけでなく、各地で地震も多く発生し、避難してもしきれないレベルで牙をむく災害も起こっております。今後も今より一層、頻繁に発生する可能性があり警戒が必要です。

また、ＳＮＳ等で起きている問題や、愉快犯による犯罪等、恐ろしい事件、事故が沢山起きております。全て目を背ける事が出来ない問題です。

子どもたちが少しでも安心、安全に対処出来る様に教育し備えや行動が必要です。

楽しい読み聞かせ 1

「読み聞かせを通して 子どもの心 親心」育てていきたい

多治見市立池田小学校ＰＴＡ

子どものクラスで十分間

家庭教育学級の開催日に、朝活動の約十分間を活用することで、少しでも家庭教育委員の負担を減らすことができるように考慮してあります。

十分間という限られた時間で行いますので、絵本ならば二冊ほどの時間です。最近ではいろいろと趣向を凝らしていただく委員の方も多く、また多様な子ども向けの本も増えてきたため、科学の本や地理の本、歴史の本を、パネルを用意してわかりやすく説明をしたり、質疑応答の形式にしたり、紙芝居や絵を使ってみたりと、先生さながらに、子どもたちを飽きさせないように工夫をして楽しませて下さる方もいらっしゃいました。

高学年になると少し長めの児童書などを選ぶ方が増えてきますが、十分間では読み切ることが出来ず、途中で終わってしまうことになります。しかし、途中だったとしても、その十分間は子どもたちにとっては大切な時間になると考えています。なぜなら、そこにはまず読み聞かせには純粋に本の楽しさを学んでほしいという意図があるからです。読み聞かせが面白かったから自分で読んでみよう、その本の挿絵を見てみたい、途中だった場合には、本の続きが読んでみたい、と思ってくれることは、子どもの豊かな読書生活につながっていると思うからです。

願いと気持ちを込めて

「週一回以上の読書を楽しむ八～十二歳の子どもとティーンエイジャーの割合は下がり続けている」という政府の研究があり、このままだと多くの子どもが成長をするにつれて読まなければならない文章は増え続けるので、読むことを面倒な雑事だと考えるようになるのではないでしょうか。池田小学校は高学年にも読み聞かせをすることで、ただ座って話を聞く以外に何もしなくてもよい、というプレッシャーのないやり方で読書の喜びを思い出させてあげるお手伝いになればいいな、と考えます。

理想論ではありますが、読み聞かせは聞き取る力、情報を整理する力を得て、その先の本を読み取る力を付け、最終的に想像力、理解力、知識として自分の力にしていく大人になってほしいという私たちの思いがあり、他にも単純に親（委員）の声がじかに子どもの耳に響く心地よさを感じてほしいという気持ちで、この活動を続けています。

子どもたち自身にとっても、先生ではなく自分の親であったり、クラスの子の保護者の方が学校の教室の教壇の前で読み聞かせをしてくれることは、いつもと違う環境で特別な刺激を受けて、小学校を楽しく感じたり、小学校生活を振り返った時に思い出してくれたりするような活動であればよいと願っています。

今しかできない、子どもたちのために

本を読み聞かせる練習や、どの様な本を選ぶかはそれぞれの家庭教育委員に任せております。家庭教育委員にとっては自分で本を選び、子どもたちの前に立って話すということに慣れていなくて、不安を感じる方も多くいらっしゃることも確かです。しかし、自分の子どもの前で読むのだったら…と考えて、お勧めの本を真剣に選び、少しでも子どもたちと楽しい時間を共有するために右往左往することは、親としてプラスになっても決してマイナスにはならない経験だと思います。

共働き世帯も増え、なかなか決まった時間を取ってもらうことが難しくなりつつありますが、読み聞かせをしていただく家庭教育委員さんにとっても、今しかできない子どものために頑張った時間として、振り返ってよい思い出になることを期待しています。

私たち、池田小学校のＰＴＡは色々なイベントや活動を通して、親子のふれあいと学校や地域とのつながりを身近に感じて頂ければよいと考えています。

これからも一人ひとりの母親、父親に、わが子のあゆみを感じてもらいながら、それが一世帯ごとになり、地域のあゆみを強くして、学校全体として大きな一歩のあゆみへと繋げていけるように、未来へ向かって励んでいきたいと思っています。

Illustration&Quiz
イラスト＆クイズ

ＰＮ．レム（高山市）

ＰＮ．でろーん型たけのこロボット（大垣市）

question❷

出題・木村 恵美（各務原市）
〈答えは41ページ〉

「うし」は「うし」でも頭にかぶる「うし」って？

私が出会った1冊の本【続37】

夢をかなえるゾウ

水野敬也　著
飛鳥新社

中津川市立西小学校ＰＴＡ会長　瀬戸　良贈

本との出合い

日々の生活の中で、変わらなくてはいけない中、変われない自分に情けなく感じている中、ふと本屋さんに入った瞬間、へんてこりんなゾウの絵が描いてある本が飛び込んできました。

感動のシーン

トイレ掃除をする、ちゅうことはやな、一番汚いところを掃除するっちゃうことや。そんなもん誰かて、やりたないやろ。けどな、人がやりたがらんことをやるからこそ、それが一番喜ばれるからや。一番人に頼みたいことやから、そこに価値が生まれるんや」

（夢をかなえるゾウより引用）

お勧めの理由

一七〇万部を超えるベストセラーで、ドラマやアニメ、ゲームにまでなりました。内容自体は自己啓発本で、それを小説仕立てにして読みやすくしています。

平凡なサラリーマンである主人公の前に突然現れたゾウの姿をした神様、ガネーシャ。なぜか関西弁を喋るガネーシャが出してくる課題に、日々取り組む主人公。笑いあり、喧嘩あり、涙ありの自己啓発系エンターテイメント小説です。

この本で伝えたいことは「とにかく行動、実践しなさい」ということです。ちょっと伝え方を変えるだけで、これだけストンと落ちてくるものなんだなと感心させられました。

お勧めのポイントは、すぐ、今日、今から、行動実践できる事ばかりで、そのことにより視野や考えが変わり、今までの景色が変わるキッカケになるというところです。

とんび

重松　清　著
角川文庫

岐阜市立岐阜中央中学校ＰＴＡ会長　伊藤　健太郎

私には大学三年の長女、大学一年の長男、中学三年の次男と三人の子どもがいます。長女が小学生の時から十一年間ＰＴＡの仕事に関わらせていただきましたが、次男が中学を卒業する今年度で、私もようやくＰＴＡを卒業となります。その最後の年に親子の絆、家族の大切さが描かれた本を読んでおきたいと思い、探して出会ったのがこの本です。

「とんび」。幼い頃に両親と別れ、家族というものを知らなかった男が、同じような境遇で育った女性と出会い、結婚し、子どもが生まれ、ようやく手に入れた家族。その幸せな生活もつかの間、予期せぬ事故で子どもを守るために妻が命を落とし、悲しみを乗り越え、仲間に支えられながら懸命に子育てをする、不器用で熱い父と息子の物語。ＴＶドラマにもなったこの名作をご存じの方も多いと思います。

この物語はたくさんの名場面があります。息子アキラが反抗期の時、野球部の後輩に体罰をし、それを叱り、悪態をついてきたアキラをゲンコツで殴った父ヤスさん。ところが体罰を受けた後輩の親がアキラに野球部の退部を迫った時、「わしはずーっとアキラの味方じゃけん、二人まとめて相手にするつもりで喧嘩しんさいよ」と言い、親の責任を問われると「責任より愛のほうが大事じゃ」ときっぱりと言う。めちゃくちゃな理屈でも、大好きな野球を続けさせたいと子どもを守ろうとするヤスさん。その愛情に気づき、事の重大さに気づき、泣きながらごめんなさいを繰り返すアキラ。

またアキラが東京の大学進学を希望した時、幼馴染の照雲に「え

え息子じゃ。ほいでも、おまえはまだ親になっとらん」と親の覚悟を問われ、息子の成長を喜びながらも自分の元を離れていくことが寂しく、親とはどうあるべきかを葛藤しながらも、アキラを送り出すことを決めたヤスさん。東京に出発する朝、寂しくてトイレから出てこないヤスさんに対して、ドアの前に立ち「気をつけ」の姿勢になって「親父…行ってくるけん」と言ったアキラ。

また七つ年上の、子ども連れの結婚相手をアキラが連れてきた時に、最初は困惑し、正面から向き合えなかったが、仲間のたえ子さんや照雲の挑発で、泣きながら「アキラの女房は、わしの娘じゃ！」と叫んだヤスさん。…その他にも魂が震える場面がいっぱいあります。

「理」のスジよりも「情」のスジの方を大切にするヤスさんの生き方、私も人として忘れてはいけない、大事なことなんじゃないかと改めて感じました。またこの本は、子どもを育てるということは、自分も親になるために子どもに育てられているのだということに気づかせてくれます。

親とは時に強く、時に弱く、時に悩み、時に寂しく、時に愚かなものだと思いますが、私も不器用でもまっすぐに、熱く、一生懸命愛し抜き、子どもの前でも、笑いながら泣ける大人になりたいと思いました。

「親は子どもの悲しさを呑み込み、子どもの寂しさを呑み込む、海になれ」と、ヤスさんの父親代わりの海雲和尚が言った言葉も心に響きます。よくある最後にドンデン返しがあるような物語ではありませんが、めっちゃ泣けます。オススメします。

Illustration&Quiz

イラスト＆クイズ

ＰＮ．SH．Ior．☆（海津市）

ＰＮ．Tomosaburo（養老郡）

question 1

出題・赤堀 れいき（岐阜市）
〈答えは41ページ〉

「チョウ」を９匹描きました。使った道具は何？

立ちどまらない保険。
MS&AD
三井住友海上

息子がオレの運転を
見守りたいって、どういうこと？

専用の車載器で、運転を見守る。安全を見守る。
補償だけではなく、家族がもっと安心できるための
新しい自動車保険の登場です。

＼家族をつなぐ6つのサービス／

1	危険運転時に音声等でアラート	急加速などの危険運転をした時や、事故多発地点の接近時に専用車載器が音声等で警告をします。
2	高速道路逆走の可能性があるときに音声等でアラート	逆走事故が起きたインターチェンジ等では、逆走の可能性があるときに専用車載器が音声等で警告をします。
3	指定区域外を走ると音声等でアラート	あらかじめ指定しておいた範囲内の地域をあやまって出てしまった場合に専用車載器が音声等で警告をします。
4	運転診断結果をレポート	走行データをもとに分析した運転傾向や各種アラートの通知状況等をレポートします。
5	事故発生時の速やかなサポート	大きな衝撃を検知すると安否確認の電話を行い、事故だった場合には丁寧にサポートします。
6	見守る家族にも運転診断結果をレポート	運転傾向や各種アラートの通知状況等を見守るご家族等にも毎月レポートします。

見守る、は きずな。
GK
見守るクルマの保険

中島家の巻
82

家庭のルールづくり～思いやること～

美濃市立牧谷小学校PTA会長　中島 哲也

六月の授業参観において、家庭教育学級の一環として小六の娘の学級で、「親子ケータイ・スマホ安全教室」が実施されました。子どもと一緒に講師の方から、スマホ等の安心・安全な使い方を伺いました。そこでは、家庭のルールづくりの大切さやルールをサポートする方法（アプリ等）、保護者としてフィルタリングを設定する重要性等を学ぶことができたました。

この日、家庭で子ども達とスマホやゲームについて話題にしました。娘は「スマホの便利さも分かったけど怖さも分かった」と話していました。そこで早速わが家のルールを話し合い、「使うときは親に一言いうこと」「スマホやゲームは二番目（一番は宿題）ということ」「機器の向こう側にいる相手の存在を考えること」を改めて確認しました。

近年、スマホやインターネットにつながるゲーム機器等の使用に関わってのトラブルが増えています。これは決して他人事ではなく、わが家でも起こることかもしれず、それらの機器を与える保護者としての責任は大きいと感じます。安心・安全な使い方は、使う側の心の表れです。家庭のルールを話し合うことにより、自分だけでなく相手も大切にする思いやりの心を育んでいきたいと思います。

話そう！語ろう！
わが家の約束

柳家の巻
83

約束一　スマートフォン・インターネットに悪用されない
約束二　交通安全に気をつける
約束三　お年寄りを敬う

わが家には、中学二年生と高校一年生の娘がおります。親の願いとしての約束です。

現代は、ＩＴなしでは考えられない世の中です。利便性、快適さなど充分に活用していかなければなりません。

一方、ＩＴの世界には危険が潜んでいます。中毒と言われる症状もあります。学生時代の貴重な時間を、仮想の世界に奪われたり、悪用されてはならないと伝えています。

そして何より、命が大切です。家から出たら自分自身で交通安全や身の危険に気をつけて、無事に家へ帰ってきて欲しいと伝えています。

お年寄りからは、人生の知恵をたくさん教えていただけます。

約束を通じて、元気にたくましく、自分らしく成長してほしいと願っています。

大垣市立西部中学校 母親代表　柳 江里子

親の願い ～三つの約束～

子の思い

がんばった運動会

羽島市立足近小学校
三年　大野 結加

昨日、運動会がありました。わたしは、八十m走で「最下位になったらどうしよう。」という気持ちがあって走るのがとても不安でした。練習では体育で習った大きく腕を振ることを意識して取り組みました。そして、家でも少し練習しました。いよいよ本番です。スタートする前はすごくドキドキしました。スタートしてからゴールまで精一杯走って二位になることができました。家に帰るとお母さんが、「がんばったね。」と言ってくれました。とてもうれしかったです。

応援では、緊張したけど自分のせいいっぱいの声を出せました。そして、優勝もできたのでうれしかったです。優勝と聞いたとき白団のみんなが喜んでいました。わたしはそれを見て、もっとうれしくなりました。毎日暑い中、何度も繰り返し練習してつらかったけど、今まで練習してきて本当によかったと思いました。来年も頑張りたいです。

ぼくの習い事

瑞浪市立釜戸小学校
五年　小池 一真

ぼくは、英語、スイミング、ピアノ、柔道を習っています。それぞれの習い事には、目標があります。英語は、検定試験での満点、英検五級合格です。ピアノは、五年生の音楽会の伴奏をひくことです。柔道は、黒帯をとることです。

高学年になり、勉強との両立は大変ですが、目標に向かって努力しています。なぜ、がんばれるのか、それは、お父さんとお母さんが支えてくれるからです。

お母さんはピアノの練習を見てくれます。お父さんは、ぼくと一緒に柔道を習い始め、練習や試合にはいつもつきそってくれます。お父さんの夢は、親子で黒帯をとることだと聞いて、とてもうれしくなりました。

お父さんやお母さんがいてくれるから、どんなに練習が大変でも、ぼくはやる気が出てきます。お父さんとお母さんの応援をはげみに、これからも目標に向かって努力します。

伝統文化を受け継ぐ

郡上市立郡上東中学校
三年　兼山 遥音

「ドドーン。」体にも、心にも響く和太鼓の音。地域の方が演奏する『陣屋太鼓』が、小さな頃から好きだった。いつか演奏してみたいと思っていた。

私の通う郡上東中学校は二つの学校が統合して、今年八年目を迎える。統合前から、それぞれの中学校で伝統文化を大切にする学習が行われていたそうだ。統合して新しくなった学校でも、お囃子、神楽笛、美術（茶道）そして陣屋太鼓の四つに分かれて、ふるさと学習として取り組んでいる。講師は、地域の皆さん。六月から稽古をはじめ、地域のイベントや学校の文化祭で発表する。

昨年、私は憧れの陣屋太鼓のグループに入った。最初の頃は、基本的なことばかりだったけど、太鼓を叩けることが楽しかった。でも、曲の練習に入ると，何度も同じところで間違えたり、手にまめができたり、肩が痛くなったりして、自分で考えていたものとはかけ離れた感じがしていた。しかし、講師の方々の本気の指導や先輩からのアドバイスを受け、だんだんと音が合うようになってくると「練習が楽しい。」と感じられるようになってきた。

一曲を、はじめから最後まで通せるようになると「大変だったけど、練習してきてよかった。」と思った。本番の演奏も大成功。聞いている人からの拍手や「すごい。」「かっこいい。」などの声もあり、その時の達成感は、何ともいえないすがすがしいものだった。

こんな思いになれたのも、何もできない私たちに、根気よく教えてくださった講師の方々。そして陣屋太鼓の誕生からこれまで続けてこられた郡上陣屋組の皆様、応援してくださった地域の皆さんのおかげだと感じた。私は、その方々の強い思いにふれることができこの活動を次につないでいきたいと思った。

今年度も、また、ふるさと学習がスタートした。新たなメンバーで、去年感じた思いをまた感じられるように…。今度は、私たちが、みんなを引っ張っていけるように頑張っていきたい。

親の願い

親の務め

大野町立中小学校ＰＴＡ
会長　野村 克仁

近年テレビなどのニュースを見ていると、小・中学生が巻き込まれる事件、事故が数多く見受けられます。子をもつ親としては心配でたまりません。自分は、こんな世の中に子を送り出すのがいやで、少子化に協力してきた一人ですが、実は、四十歳手前で子を授かることになりました。それは飛び上がるくらいうれしかったのを思い出します。この子がどんな人生を送るのか、楽しみ半分、心配半分でした。大きくなるにつれ、心配ごとの方が多くなった今日この頃です。

親としては、人様に迷惑を掛けず真っ当な人生を送って欲しいと願っています。特に、男の子の親としては誰もが思うことではないでしょうか。とにかく子どもというのは、楽なこと、楽しいことの方へ行きたがります。〝アッ〟これは大人も同じです。でも、大人は、ある程度我慢することができます。子どもは、我慢することが苦手です。個人差はもちろんありますが、叱られるのが怖くて我慢ばかりさせていると、陰で悪さをするようになります。これでは困ります。ある程度伸び伸びとさせないと、子どもの成長の妨げになると思います。

黙って子どもの成長を見守るのも一つの手です。『親はなくとも子は育つ』とはちょっと違いますが、本当に間違った方向に向かった時、真剣に向き合い話し合い、教えれば良いのかもしれません。が、危険な賭け引きかもしれません。犯罪者を育てるのも親なのです。

最近の犯罪者は、自分の欲望を抑えきれずに犯罪に手を染めるケースが増えているような気がします。『こんな子を育てた覚えは無い』という決まり文句がありますが、子が育つ環境を作り出すの

大垣桜高校
まんが研究部

最近の癒し

逆さ言葉

せみよくなくよみせ

（セミよく鳴く夜店）

出題・伊藤 慎介（山県市）

は私たち親です。

しかし、子は親の思いどおりにはいきません。理想を押し付けるのでは無く、理解させるのが大事です。それには、子どものことをまず理解しなければ、親の思いを理解はしてくれません。叱られて親が怖いから言うことを聞くのは、「シツケ」ではありません。意味も無く怒るのは、親の理想を子どもに押し付けているだけ。そしていつか子どもは「バクハツ」します。これが反抗期です。バレなければいい、陰で悪さをする、これが犯罪の始まりではないでしょうか。犯罪の被害にあうのはもちろん嫌ですが、加害者になるのはもっと嫌なことです。

子どものことを十分理解してやれば、親のことを理解してもらえると信じています。親は子の良きパートナーでなければならないのです。

親の願い、子の願い

多治見市立小泉中学校PTA
会長　中村 久美

（健康で元気な赤ちゃんが産まれてきます様に…）

世界中の誰もが初めて我が子へ思う願いだと思います。子どもが無事に産まれると、次に（病気にならず元気一杯すくすくと育ってほしい）（沢山食べて大きくなってほしい）ただ子どもが笑っていてくれればいいと願いながら、必死で毎日育児を楽しみます。勿論楽しい事ばかりではなく、辛い時、しんどい時、泣きたくなる時、誰かに助けを求めたくなる時も、一生懸命育てている親程悩む事も多い中、ただ子どもに幸せであってほしいと願う毎日です。

それが幼稚園、小学校に進むうち、子どもへの【無償の願い】が、気付かないうちに【勝手な期待】に変わってはいないでしょうか。カウンセラーである私の元に、ご相談にみえるお母様に多いのが（勉強頑張って欲しい）（良い子になって欲しい）これは全て親の願いではなく勝手な期待です。良い子というのは大人や親にとっての【都合の良い子】を意味していませんか。

子どもが我儘を言え、沢山悲しんで苦しんで、しんどい思いを吐露できるのは唯一【家庭】であり、【母親】だと思います。楽しさは誰とでも共有できます。学校で友達、先生と沢山笑って遊んで、勿論家庭でも沢山笑いますが、楽しさや喜びだけでなく、外で我慢したり抑えている部分を発散できる場所は、家であるべきであると思います。

私は（笑顔で元気に生きていてくれればそれが私の幸せであり願い）です。欲を言えば（ひと様に迷惑をかけない）これだけです。そしてそれを日々叶えるために、母親は笑顔でいようと心がけています。【親の願い】がある様に、きっと子どもにも【子の願い】がある筈です。私は不出来な母親ですので、子の願いは沢山あると思います。その中でも【子ども達が笑顔でいられる場所】を作って待っている事が【子の願い】の基本だと私は思って、毎日笑顔でいます。

我が校では【子どもを褒めて認める】事を、家庭はもちろん地域ぐるみで活動しております。大人でも、褒められたり存在を認められる事は嬉しいものです。些細な事でも褒めたり認める事で対話も増え、子どもの情緒も安定した日々を送る事ができるものです。

認める事の基本は（貴方の存在自体が嬉しい。ありのままで、ただ元気に毎日生きていてさえくれればそれだけで親は嬉しいのよ）と親にとってかけがえのない存在であり、子どもの存在の大きさ、意義を子どもに日々伝える事が重要だと私は考えます。そして、自分だけの命ではなく、自分が生きている事、存在している事で、親はもちろん、兄弟姉妹祖父母など家族や沢山の人に幸せを与えている大切な命であるという事を伝える事ができるのではないでしょうか。

存在そのものを認められていると認識している子は、きっと心も安定しており、自分を大切にでき、自分に自信を持って生きていけると共に、他人を認め敬う事ができる、他人に優しく接する事ができる子になるのではないでしょうか。

親が日々楽しんで笑顔で過ごしていれば子どもも嬉しいはずです。

私は、我が家の【親の願い、子の願い】を叶え続けるため、今日も太陽のような笑顔で、向日葵のような子どもたちと主人を照らしていたいと思います。

教育の窓

一人ひとりの夢が学級の願いに…

可児市立今渡北小学校
教諭　古賀 栞

初任二年目で、今渡北小学校の一年生の担任になってから、三ヶ月が経ちました。毎日、新しい環境、新しい勉強、新しい仲間に対して子どもたちはキラキラと目を輝かせています。そんな時、ある出来事がありました。

一年生ではあさがおを育てています。子どもたちは種をまいた時、「大きくなあれ、大きくなあれ。」と言いながら水をあげていました。その様子を見て、私は驚きました。このような声かけをするように指導した訳ではありませんが、命の尊さを感じ、「大きく育ってほしい。」という願いをもって育てようとしていたのでした。そんな子どもの姿を見て、私も「大きくなあれ。」と自然と声が出たことを覚えています。

子どもたちと一緒にあさがおを育てていく中で、毎朝、観察をしては、つぼみが出たことや花が咲いたことを嬉しそうに話してくる子どもの姿は私の宝物です。ある日、ある男の子から、「先生、このあさがおはどうやって種になるの？」と聞かれました。今までの私であれば、すぐに教えてしまっていたかもしれません。

しかし、あえて即答をしませんでした。「今までみたいに、大切に育てていれば、きっとあさがおが教えてくれるよ。」と声をかけました。〝大きくなあれ〟と、毎日丁寧に世話をし、発見したことを心から「すごい。」と感じることができる子どもたちなら、自ら気づいていくことができるのではないか、と考えたからです。

私は今まで、「一年生だから…」と、何でも最初から教えなければならないと思っていました。しかし、毎日新しいものに出会っていく一年生だからこそ、目や耳、においで発見し、考え、学んでいく

大垣桜高校
まんが研究部

予期せぬ結末

逆さ言葉

うまはまう

（馬は舞う）

出題・赤堀 れいき（岐阜市）

のだということを、子どもたちから教えてもらった気がします。ただ、様子を見ているのではなく、子どもと同じようにあさがおを育てたことで、以前は見えなかった子どもの感性や可能性に気づくことができました。あさがおだけでなく、掃除の時間に一緒になって雑巾がけをしたり、休み時間に一緒になって外で遊んだりすることも同じだと思います。これからも、子どもたちの「すごい！」「なんで？」という気づきを大切にし、共に声をかけ合っていきたいです。

子どもたちの願いや夢が「大きくなあれ。大きくなあれ。」と心の中で唱えています。

＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊

未来を生きるために

海津市立平田中学校
教務主任　森 久尚

最近の科学技術の進歩は、めざましいものがあります。現在でも、スマホなどが普及し、少し前には苦労して調べたり、工夫して行ったりしていたことが、指でタッチするだけで簡単にできてしまいます。

また、二年後の東京オリンピックまでには、運転手の必要ない自動運転の自動車が導入される計画があり、ますます便利な世の中になっていきます。私たちの孫世代は、宇宙旅行が普通にできる世の中になっているかもしれません。何とも夢のある話です。

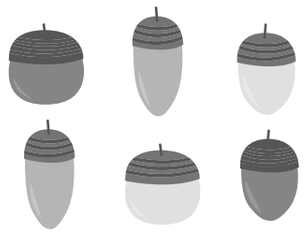
しかし、技術の進歩で多くのことを機械が行うようになり、将来は、消えていく職種や全く新たな職種が多く出てくるであろうということを耳にします。便利な生活になっていく半面、今の子どもたちが就職していくためには、想像できない苦労が待っている可能性があります。今までの教育を見直し、子どもたちにどんな力を付け、どんなことをできるようにすることが必要なのかを見極めなくてはなりません。

私は数学教師であり、新しい時代に求められる資質・能力を育てようと日々試行錯誤しています。既に「計算をすること」は電卓やタブレットで行うことができてしまう時代です。「私は計算が得意だ。」と言って、素早く正確に計算ができるだけでは、もう社会に通用しなくなるかもしれません。

大切なのは、計算の仕組みをきちんと把握できること、そしてその学びを物事の成り立ちを正しく理解することに活用していくことだと考えています。機械が様々な作業を行うからこそ、その機械を正しく操ることが必要であり、どんな仕組みで作動しているのかを理解した上で、機械に作業をゆだねていくことが必要なのではないでしょうか。

私は、毎年四月の教科開きで、子どもたちに「数学には『集中力』『ひらめく力』『論理的に考える力』の三つが大切で、これらは『精一杯働くこと』『アイデアを出すこと』『物事の仕組みを見極めて正しく判断すること』につながります。」と語っています。「計算」「関数」「図形」「データの活用」の学習をしていく中で、単に知識・技能を付けるだけでなく、これらの力を育むように心がけています。

平田中学校では、「授業で十回は笑顔でほめる」を心がけています。子どもたちの個性を認め、励まし、一人ひとりが自信をもって社会に出て行けるように、全職員が一丸となって、精一杯、指導にあたっています。本当に素直で誠実な子どもたちと毎日楽しく過ごせることに感謝しつつ、未来を生きるための確かな資質・能力を育て、彼らが幸せな人生を歩むための礎になれたらと切に願っています。



先生！ありがとう！

～保護者から先生へ贈る感謝の四〇〇字メッセージ～

ケンカをして親友になれた

わが家には3人の子どもがいます。長男は4月から高校生になり、一番下の長女は小3になりました。真ん中の次男は6年生です。先生方には、感謝してもしきれない程、たくさんの思い出があります。その中でも、一番印象深いエピソードを紹介します。

真ん中の次男のことです。

性格はとても穏やかで、兄妹に挟まれているので家では我慢しているところもあると思います。学校での様子も似たようなもので、人と争うことはしたことがありませんでした。そんな息子が学校で、ささいな事から友達とケンカになりました。

その時の担任の先生は、ケンカの一部始終を見ていて下さり、お互いに気が済むまでケンカをさせてくださいました。そして、終ったあと、二人の意見を聞き、話し合いをし、仲直り。今では、とても気を許し合える親友になっています。

ケンカをしない子がケンカをして親友になれた事、それを導いてくださった先生に、私は今でも、心より感謝しています。

匿名希望

《メッセージ随時受付中》

私たちは「言葉」でつながっています。PTAと学校、保護者と先生の信頼関係を深くし、子どもたちを健全に育てるために、先生に感謝のメッセージを贈ります。この気持ちは子どもに伝わり、やがて子どもたちも同様の気持ちを持ってくれると信じます。400字以内のメッセージ（書式自由・ハガキも可）に住所、氏名をご記入のうえ、「末尾に氏名又はペンネーム又は匿名希望」で右記へお送りください。

〒500−8824
岐阜市北八ツ寺町7岐阜県校長会館内
岐阜県PTA連合会「わが子のあゆみ」編集部
「400字メッセージ係」
FAX　058(262)3259
Eメール　info@g-pta.com

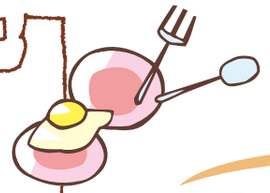
お試しクッキング

りんご蒸しパン

岐阜県学校栄養士会

親子で楽しく、フライパンを使って簡単に作ることができるりんご蒸しパンの紹介です。フライパンで蒸す時の水の量は、熱湯がカップの中に入らないように、カップを並べて熱湯が下から1㎝程度が目安です。

これから旬を迎えるりんご。県内でも飛騨地方ではりんご、なし、ももといった果物がたくさん作られています。その中でも一番多く作られているのがりんごです。飛騨は寒暖の差が激しいため、実のひきしまった歯ざわりのよい、おいしいりんごが育ちます。地元で作られているおいしいりんごを使った蒸しパンは、子どもたちにも人気のメニューです。またりんごには食物繊維、ビタミンC、ミネラル、カリウムが豊富なため、疲労回復や便秘改善、高血圧予防などに効果があると言われています。おいしくさらに栄養もたっぷりのりんごです。旬の時期にぜひ作って食べてみてください。



作り方

❶ りんごは皮をむき、1㎝角のサイコロ状にカットし、砂糖と一緒に煮る。
❷ ボールに卵、牛乳、バターを加えてよく混ぜる。
❸ ❷にホットケーキミックスを加えてよく混ぜ、①のりんごも加えて混ぜる。(りんごはトッピング用に少しとっておく)
❹ アルミカップに7分目くらいまで生地を流し入れ、残しておいたりんごをトッピングする。
❺ フライパンに1㎝程の水を入れて沸かす。沸いたら一度火を止め、❹を並べ蓋をして中火で8～10分蒸す。竹串をさして生地がついてこなければ完成。

材料

(8号アルミカップ8個分)

りんご……1/2個
砂糖……10g
卵……1個
牛乳……80cc
バター……15g
ホットケーキミックス……150g

●栄養価(1個あたり)

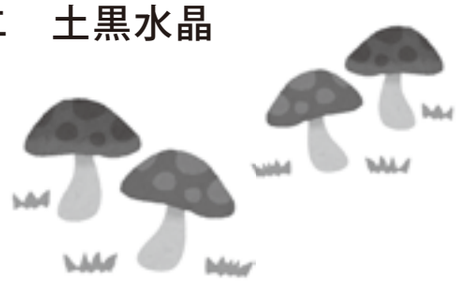
エネルギー……114kcal
タンパク質……2.4g
脂質……3.2g
カルシウム……32mg
鉄……0.2mg
亜鉛……0.2mg
ビタミンA……23μgRE
ビタミンB1……0.03mg
ビタミンB2……0.05mg
ビタミンC……1mg
食物繊維……0.5g
食塩相当量……0.3g

9月号の

親子ではてな

Q1 キノコに関するクイズです。世界三大珍味の一つであるトリュフの正しい和名はどれでしょう。

ア　伊太利亜黒子
イ　西洋松露
ウ　巴里宝玉
エ　土黒水晶



Q2 ワールドカップの2018年大会の開催地はロシアでしたが、2022年大会の開催地はどこでしょう。

ア　カタール
イ　オーストラリア
ウ　インドネシア
エ　アメリカ

応募方法

応募者は、はがきで、9月末までに下記の宛先へお送りください。
(1人1枚・当日消印有効)
※クイズの答えは1問だけでもOKです。

宛先　〒500−8824
岐阜市北八ツ寺町7
岐阜県校長会館内
岐阜県PTA事務局
「わが子のあゆみ編集部」

なお、応募はがきには『わが子のあゆみ』への感想・意見やなぞなぞの問題と答え、逆さ言葉などを記入してください。

- ●9月号クイズの答え
- ●郵便番号・住所
  学校・学年・氏名
  保護者名
- ●『わが子のあゆみ』への感想・意見
- ●「なぞなぞ」の問題と答え
- ●逆さ言葉

7月号クイズ答え

Q1 ウ　Q2 ウ

7月号のクイズ当選者

赤堀れいき（岐阜市）　伊藤　慎介（山県市）
松尾依奏良（岐阜市）　三宅　晴（美濃加茂市）
木戸　綾乃（羽島市）　鈴木　樹（美濃加茂市）
廣澤　陽子（各務原市）　尾崎　伸明（高山市）
木村　恵美（各務原市）　堀　希実（羽島郡）

なぞなぞの答え

①ぼうし
②チョーク

可児市立東明小学校　ふるさとの伝承

「美濃桃山陶の聖地」の学校

～陶芸と茶の湯を通して、ふるさとへの愛着と誇りを育む～

東明小学校の久々利大萱地区には、安土桃山時代から江戸時代まで優れた桃山陶を世に送り、日本の文化芸術に大きな影響を与えた窯場跡があります。昭和五年に荒川豊蔵さん（人間国宝）が、陶片を発見したことで、約四〇〇年前にこの地で焼かれていたことがわかりました。これが、「美濃桃山陶の聖地」と呼ばれる所以です。

本校では、平成二十一年度から全学年で地域の歴史や文化に触れ、その文化を体験しようと「陶芸」と「茶の湯」を学んでいます。

《陶芸》

一年生は、これから六年間にわたって使用する抹茶茶碗の絵付けを行います。二年生は、たたらづくりのお皿づくり。三年生は、自分の夢を叶えてくれるシーサーをつくり、手作りレンガ窯で焼き上げます。四年生は、粘土から志野焼きの成形作業を体験します。五年生は、二色の粘土を合わせて市松模様にして、たたらを切り出しお皿をつくります。そして、六年生はたたらから花瓶をつくります。教職員も夏休みに校区の陶芸苑で作陶を楽しんでいます。

秋には「校内陶芸展」を開催し、全校で仲間の陶芸作品を鑑賞し合っています。また、十一月には、地元の地区センターにおいて「出張子ども陶芸展」を開催しています。また、六年生は「笑顔の花びん」と名付け、校区の幼稚園、保育園、中学校や地区センターに花瓶をプレゼントすることで、本校のふるさと教育を広く地域に発信しています。

《茶の湯》

茶の湯のお点前を学ぶのは三年生からです。校内に茶室があり、茶道師範のもとで、みっちりと作法を学びます。そして、十二月には三日間にわたって全校お茶会を開催しています。三年生以上の児童は互いにお茶を点てあいます。一・二年生は、五・六年生にお茶を点ててもらったり、お作法を教えてもらったりしています。さらに、多くのお客様をお茶会にお招きして茶道を通しておもてなしをしています。

さらに、ＰＴＡの家庭教育学級で、「茶道教室」を行ったり、六年生が秋の授業参観後に「親子茶会」を開催したりしています。

また、「お茶クラブ」は子どもたちに人気があります。クラブの児童は校区の地区センター祭りに参加し、来場者にお茶を振る舞っています。

▲１年　茶碗の絵付け

▲近隣の公共施設（久々利地区センター）に児童作品出張展示

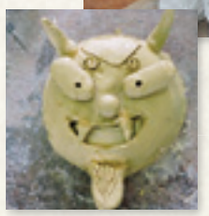
▲学校創立５０周年記念

▲お茶会

▲２年　お皿の絵付け

▲３年　茶道体験　講師の方にご指導いただく児童

▲６年　花瓶


▲３年　シーサー

白川町立白川小学校は、全校児童四十八名の学校です。豊かな自然環境に恵まれた、山間の小規模校です。また白川町は、「読書のまち　美濃白川」として町全体で読書活動に取り組んでいます。今回は、白川小学校の子どもたちが、読書活動に取り組む姿を紹介します。

本との出会い

図書館祭り

登校すると、まず図書館へ本を借りに行きます。図書館には、新しい本がたくさんあり、子どもが来やすいよう工夫されているので、毎朝行くのが楽しみです。今年の図書館まつりでは、図書委員会の子がワークショップやクイズラリーを行いました。また、生活委員会の子が歯に関する本を読んでくれました。

子どもたちの周りには、常に本があり、自然に本と親しむ環境があります。

ワークショップ

読み聞かせ

ビブリオバトル

高学年ビブリオバトル

自分のとっておきの一冊を紹介する、ビブリオバトルを一学期に行いました。六年生ではチャンプ本に選ばれた子どもが他校の児童との集合学習で発表しました。二、三年生もチャンプ本に選ばれた子どもが二学期に行う集合学習で発表します。

親子で本借り

日曜参観「親による読み語り活動」

日曜参観

父親読み語り

六月の日曜参観日には、毎年親による読み語りを行っています。一年生入学時に、何年生でどの親が読むのかを決めています。日曜日ということもあり、父親が読んでくれる事も多いです。普段は、なかなか機会のないお父さんの読み語りに子どもたちはわくわくした目で、本の世界に入っていました。

親・地域の方の読み語り「お話玉手箱」

「お話玉手箱」は、親や地域の方に協力してもらい月に二回行われる読み語り活動です。

読み手は笑って楽しめる本、季節の本、子どもへの願いが込められた本などを前もって選びます。朝の会の後、各クラスへ行き、読みます。子どもたちは、様々な本と出会い、心がますます豊かになっていきます。

町図書館司書による図書指導

読み語りサークル「お話玉手箱」

郡上市立八幡西中学校

夢中！熱中！我らが部活

剣道部

剣道部は「百錬自得」を部訓として、日々練習に励んでいます。ほとんどの部員が中学生になってから剣道を始めた初心者なので、対外試合ではくやしい思いをすることが多いのですが、真剣な気持ちで練習を続け、練成会などに参加して経験を積むうちに少しずつ自分たちの成長を感じることができるようになりました。これからも、先輩、コーチ、先生方、保護者、他校の皆さんへの感謝の気持ちを大切にしながら根気よくがんばっていきたいと思います。

軟式野球部

野球部は部員数7名という少人数ですが、部員一丸となって日々の活動を真剣に行っています。モットーとしていることは、「常にはつらつと声を出すこと」「一分一秒を大切にきびきびと動くこと」です。結果を求めるためには、厳しさが必要です。それを乗り越えるために、仲間と声をかけ合い、チームの明るいムード作りに励んでいます。また、限られた時間の中で充実した活動ができるよう、機敏なフットワークを追求しています。

ソフトテニス部

ソフトテニス部は、3年生11名、2年生5名、1年生4名の合計20名で活動しています。日ごろから大切にしていることは、返事や挨拶の声を大きくすることと、時間を意識して駆け足で行動をすることです。練習の質にこだわり、1つ1つの練習を精一杯行うことで、精神的にも技術的にも力をつけていき、「すべての試合で1ゲーム以上とる」ことを目標にしてがんばっています。ボールを最後まで追いかけ、声をかけ合い、レベルアップしていきたいと思います。

バレーボール部

私たちバレーボール部は、日々声を出すこと、試合を想定して練習することを大切にしています。3年生を中心に声を出し、1年生もそれについてきて、チーム一丸となってがんばっています。昨年までは今の3年生二人で活動していましたが、今年は1年生がたくさん入り、大会に出場することができます。このメンバーで大会に出るのは最初で最後になります。みんなで全力を尽くしてがんばります。

卓球部

卓球部は、3年生4名、2年生10名、1年生12名の合計26名で活動しています。いつでも「はい」という返事の声、挨拶の声、そして応援の声を大切にして練習に取り組んでいます。一人ひとりが自分の課題をしっかりと意識し、一分一秒を無駄にしないようにきびきびと動くことを心がけています。試合では、「もったいないミス」をなくすために、一球一球を大切にプレーしていきたいと思います。

私たちのPTA

各務原市立中央中学校PTA

あいさつ運動（１日目）

あいさつ運動（２日目）

中央中学校校舎

地区懇談会（パワーポイント）

地区懇談会（情報モラル講話）

学校紹介

各務原市立中央中学校は、生徒数七七五名で平成三十年度をスタートしました。来年度、四十周年を迎えます。学校の教育目標は「たくましく未来を切り拓く生徒の育成」です。今年度は「楽しく・分かりやすい・できた」と実感できる授業と、「学校に行くことが楽しい」と思える学級学校生活になるよう努力していきます。

ＰＴＡ活動

平成三十年度の活動スローガンは「育てよう！思いやり溢れる子どもたちに！深めよう！美しい言葉でつながる家族の絆を！」～想いや願いを姿や行動へ！～です。子どもたちの学校生活がより素晴らしいものとなるように皆さんとＰＴＡ活動を楽しんで進めていきたいと思います。執行部と５つの委員会が協力して、四月から活動してきました。

ここに紹介するのは、五月から六月にかけての活動です。委員長の皆さんがＰＴＡの方への報告の形で綴った文章です。

ＰＴＡ情報モラル講話　五月九日（水）　校外生活委員長

今年度は、各務原警察署より講師をお招きし、保護者の方を対象とした情報モラル講話を開催しました。携帯電話やスマートフォン等により、いつでも・どこでも・だれとでもやり取りができるようになった反面、「ネット依存」「いじめにつながる書き込み」「ＳＮＳで知り合った人とのトラブル」「ネット被害による金銭被害」「ＩＤ交換による被害」「写真や動画の流出」「軽はずみな投稿」など、多くのトラブルが起きている現状を知りました。そこで、インターネットの特性や危険性を正しく知り、子どもたちの安全を守る方法を学びました。ご参加いただき、ありがとうございました。

ＰＴＡあいさつ運動　六月四日（月）～六日（水）　健康・安全委員長

六月四日～六日の朝、生徒玄関にてあいさつ運動が行われました。参加された保護者の方や先生方に、元気にあいさつしてくれる生徒もいれば、恥ずかしがる様子の生徒もいました。中には、砂で汚れた玄関を進んで掃く生徒たちの姿も見られ、朝からとても気持ちがよくなりました。

次回のあいさつ運動は十一月五日～七日を予定しております。是非、朝の子どもたちの様子を見に来てください。そして、子どもたちと元気にあいさつして、一日の良いスタートを切ってみてはいかがでしょうか。中央中にあいさつの輪が広がり、お互いの仲がさらに深められると良いですね。

ＰＴＡ高校見学会　六月十三日（水）　研修委員長

今年度も昨年に引き続き、高校見学会を実施し、二十五名の方に参加していただきました。今回は、岐阜各務野、富田学園（富田・岐東）、関商工の三校にご協力をいただきました。各専門学科の充実した施設や実際の授業の様子を見学した後、先生方から学習内容や卒業後の就職や進学先等も聞くことができ、今後の進路について考えるための情報を得ることができたと思います。ご参加いただき、ありがとうございました。

ＰＴＡ子育て広場　六月二十九日（金）　教頭講話と給食試食会　一年学年委員長

本年度は教頭先生に「思春期の子どもとの付き合い方」について講話していただきました。

思春期の子どもとのコミュニケーションに不安や戸惑いを感じる日々ですが、講話では思春期は自己形成される大事な時なので、子どものことを理解し、言葉をかける・見守る・聞き上手になる、このポイントを参考にして子どもとのコミュニケーションの取り方を学ぶことができました。

給食試食会では、栄養教諭の講話を聞きながら、給食を味わうことができました。ご参加いただき、ありがとうございました。

高校見学（情報処理）

高校見学（福祉介護）

子育て広場（給食試食会）

子育て広場（教頭講話）